

令和4年度リージョナルシアター事業  
Regional Theatre Projects

事業報告書





## 目次

はじめに .....	3
事業概要 .....	4
派遣アーティストプロフィール .....	6
事業の流れ .....	7
各地のワークショップ・トピック .....	8
<b>荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）</b> （山形県鶴岡市） .....	10
アーティストレポート 福田修志 .....	15
<b>希望ホール（酒田市民会館）</b> （山形県酒田市） .....	16
アーティストレポート 田上 豊 .....	21
<b>白河文化交流館コミネス</b> （福島県白河市） .....	22
アーティストレポート 多田淳之介 .....	27
<b>横浜市市民文化会館関内ホール</b> （神奈川県横浜市） .....	28
アーティストレポート 福田修志 .....	31
<b>島田市</b> （静岡県島田市） .....	32
アーティストレポート 有門正太郎 .....	37
<b>あすとホール</b> （大阪府泉大津市） .....	38
アーティストレポート ごまのはえ .....	42
<b>あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）</b> （徳島県） .....	44
アーティストレポート 有門正太郎 .....	48



# はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業に取り組んでいます。

平成26年度からはじまった本事業は、演劇の表現者（演出家）を公共ホールに派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施する事業です。各参加ホールのプログラムは、地域のニーズに合わせて自由に企画され、学校の授業時間を使って実施するアウトリーチ、幅広い年代の市民が交流するキッカケにするための公募ワークショップ、公立文化施設・自治体職員等が文化事業について考えるワークショップなど、多彩なプログラムとなりました。

この報告書は、「令和4年度リージョナルシアター事業」において実施した事業内容をまとめたものです。地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者が、演劇の手法を活用したワークショップを企画される際や、公共ホールの担当者と地域の表現者の共同作業を行う際の参考としていただければ幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業実施にあたり貴重なアドバイスや各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さまのご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

一般財団法人 地域創造

# 事業概要

## 1. 趣旨

一般財団法人地域創造は、公共ホールの活性化と創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、演劇の表現者（演出家等）を公共ホールに派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

## 2. 対象団体

### ①地方公共団体

②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

③地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人等（②を除く。）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

## 3. 事業内容

派遣された演劇の表現者（演出家等、以下「派遣アーティスト」）と協働して地域や対象団体の課題やヴィジョンを元に事業を企画し、演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

### ①事業日程

原則として3泊4日以内を2回、または5泊6日以内を1回とします。

なお、事業実施に向けて打合せやアウトリーチ先の下見等を1泊2日以内で実施します。

### ②プログラムの実施時間

計840分のプログラムを実施します。

## 【実施時間の考え方】

### 〈プログラムの実施時間〉

1回目の下見を除いた派遣において計840分のプログラムを実施することができます。時間の配分は、参加団体と地域創造、アーティストの三者で調整します。規定の時間数や日数を超えるプログラムの場合は、別途謝金や経費が発生し、参加団体の負担となります。

### 〈学校でのアウトリーチについて〉

学校（小・中・高校等）の授業枠でアウトリーチを実施する場合、1コマの時間は、小学校では45分×2時限（90分）、中学・高校等では50分×2時限（100分）を最小限とします。また、1コマの対象人数は1クラス約30人を目途にしています。

#### 4. 支援措置

##### (1) 一般財団法人地域創造が負担する経費

###### ①派遣アーティストにかかる経費

派遣アーティストの下見、プログラム実施にかかる派遣経費（謝金、交通費、宿泊費等）及びプログラム実施の際のアシスタント2名分の派遣経費（謝金、交通費、宿泊費等）

##### (2) 実施団体が負担する経費

###### ①研修会参加にかかる経費

ホール担当者の研修会の旅費（交通費、宿泊費等）

###### ②プログラム実施にかかる経費

プログラムを実施する際の経費（会場使用料、機材使用料、現地移動費、消耗品等）

###### ③その他

規定の時間や日数を超えて実施する場合の謝金や旅費等の経費

##### (3) その他

派遣アーティストの指定はできません。

#### 5. プログラムについて

各地域の課題に取り組むために、演出家が地域で演劇のワークショップを行います。演劇の手法を使った学校でのアウトリーチ、地元の演劇人や学校の先生、行政職員を対象にした研修会、地元の若い演劇人が派遣アーティストのアシスタントとしてワークショップに関わりステップアップを試みる、子どもたちを対象に演劇に触れる時間を持つなど、地域独自の様々なプログラムを自由に企画していただけます。

# 派遣アーティストプロフィール

派遣アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、実施団体の企画する事業の内容について、実施団体担当者と共に検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。

## 多田淳之介（演出家、東京デスロック主宰）



1976年生まれ。神奈川県・千葉県出身。演出家。東京デスロック主宰。現代を生きる人々の当事者性をテーマに古典から現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。地域、教育機関での子どもや演劇を専門としない人との創作、ワークショップ、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を軸にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3期9年間務める。2014年『min カルメギ』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。東京芸術祭共同ディレクター。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。おもな演出作品に『再生』『min カルメギ』『幸せな日々』『BEAUTIFUL WATER』など。

## 田上 豊（劇作家・演出家、田上パル主宰）



劇作家／演出家／田上パル主宰。1983年熊本県出身。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。専門は現代劇。移りゆく時代の中で揺らぐ人間やその集団を描き出すのを得意とする。劇団外でも、公共劇場プロデュース公演やダンスカンパニーとの合作、国際共同事業など様々な活動を展開。近年は全国各地の小学生から高校生までを対象にした作品創作を精力的に行い、地域性を生かした演出法には定評がある。創作型、体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。2019年より富士見市民文化会館キラリふじみの芸術監督を1期3年務める。地域創造派遣アーティスト。奈良市アートプロジェクト舞台芸術プログラムディレクター。芸術文化観光専門職大学助教。

## 有門 正太郎（演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰）



1975年生まれ北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれば何でも出来る」を合い言葉に作、演出も務め全国でワークショップやアウトリーチ活動も行っている。俳優では様々な全国ツアー公演等に参加。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャンプ～チャレンジ！えんげき～」の総合演出等も務める。役者として主な出演作品、富良野塾公演『今日、悲別で』『走る』（作・演出：倉本聰）、北九州芸術劇場プロデュース『錦鯉』（作・演出：土田英生）『江戸の青空』（作：千葉雅子、演出：G2）、時空の旅『シラノ・ド・ベルジュラック』（演出：永山智行）など。

## 福田 修志（劇作家・演出家、F's Company 代表）



1975年長崎市生まれ。劇作家・演出家。長崎大学教育学部卒。1997年にF's Company（フーズ・カンパニー）を旗揚げし、代表と作・演出を務める。心の機微を丁寧に描く作風が特徴で、長崎弁で描かれる作品には独特の温かさが感じられる。劇団外の活動としては、長崎市での市民参加型舞台の経験を活かし、子供から大人までが一緒になって創作を楽しめる空間作りを大切に、地域にある歴史や風習を背景とした作品創作を各地で行っている。また近年では演劇を活用した様々な企画やワークショップを行い、社会の接着剤のような活動も多くなっている。その他、「演劇を長崎の娯楽の一つに」という目標を実現すべく、2018年には長崎市内にアトリエ PentA という小さな劇場を構え、ディレクターとしても活動を続けている。代表作『マチクイの詩』『けしてきえないひ』『ノイズ』。

## ごまのはえ（劇作家・演出家、ニットキャップシアター代表）



1977年大阪府生まれ。劇作家、演出家。1999年自身が劇団代表となって「ニットキャップシアター」を設立。以来、京都を創作の拠点に日本各都市で公演をおこなっている。楽器や仮面など様々な表現手段でイメージーションあふれる表現を追求する一方、「街の記憶」をテーマに地域の歴史や文化を題材にした創作も行っている。2004年『愛のテール』でOMS戯曲賞大賞受賞。2005年自身の故郷大阪府枚方市を題材にした『ヒラカタ・ノート』でOMS戯曲賞特別賞受賞。2022年サハリン（樺太）の100年の歴史を描いた『チェーホフも鳥の名前』で希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」。得意料理はカオマンガイ。一般社団法人毛帽子事務所所属。

<アドバイザー>

内藤 裕敬（劇作家・演出家、南河内万歳一座座長）

岩崎 正裕（劇作家・演出家、劇団太陽族代表）



# 事業の流れ

## 1 全体研修会

令和3年11月15日（月）～16日（火）

---

## 2 事業内容の調整・下見の調整

派遣先への説明、日程調整

---

## 3 下見派遣（原則1泊2日）

派遣アーティストと地域創造担当者が現地を訪問し、打合せと会場下見等を行う。

---

## 4 事業内容の再調整・派遣先との調整

---

## 5 合意書の締結（三者）

- ・ワークショップ実施日程、内容決定
  - ・経費負担の取り決め等
- 

## 6 1回目派遣（原則3泊4日／2回目派遣と合わせて5泊6日も可）

プログラム実施

（派遣アーティスト、アシスタント×2名、地域創造1～2名）

[1日目] 移動・打ち合わせ、[2日目] 実施1日目、[3日目] 実施2日目、[4日目] 打ち合わせ・移動

---

## 7 2回目派遣（原則3泊4日）

プログラム実施

（派遣アーティスト、アシスタント×2名、地域創造1～2名）

[1日目] 移動・打ち合わせ、[2日目] 実施1日目、[3日目] 実施2日目、[4日目] フィードバック・移動

---

## 8 事業報告書提出（事業終了1ヶ月後）

# 各地のワークショップ・トピック

リージョナルシアター事業は、実施団体とアーティスト、地域創造の三者が対話をしながら、地域やホールの課題や展望を鑑みてプログラムを作っていきます。令和4年度の特徴的なプログラムをご紹介します。

## 演劇ワークショップの手法や効果を共有するプログラム

事業において協力関係を持ちたいと考える団体や事業実施団体の職員等を対象に、演劇の手法によるワークショップの内容や効果を体験できるプログラムを実施しました。教職員、行政職員、事業実施団体職員、福祉関係者、地域で活動する表現者等を対象にワークショップを実施しました。



市役所・関係団体職員対象ワークショップ（酒田市）



福祉関係者等対象ワークショップ（徳島県）

## 学校の授業時間で行うアウトリーチプログラム

子どもへのアプローチとして、学校の授業時間内で演劇の手法によるワークショップを実施しました。想像力を使うプログラムで、子どもたちも先生も、普段の授業では見られないクラスメイトの新たな一面を垣間見ることができました。



小学校アウトリーチ（鶴岡市）



小学校アウトリーチ（白河市）

## 事業実施団体やホールの役割を市民に伝えるプログラム

市民が事業や文化施設についての理解を深めたり、これまで繋がりのなかった市民へのアプローチ、またホールへの親しみ・興味を喚起することなどを目的にワークショップを実施しました。



市内企業の社員（入社1～3年目）を対象にしたワークショップ（鶴岡市）



「親子でホール探検～ヒミツのお話～」(横浜市)

## 地域の資源を活かし、地域の魅力を再発見するプログラム

普段何気なく見ている風景から想像して、見方を変えてみるプログラムや、地域の写真から物語をつくるプログラムを実施しました。まちの風景や地域の新しい魅力の再発見につながりました。



「空想しただまちあるき～新たな地域の魅力を発見しよう～」(島田市)



「写真でつむぐ小津ものがたり」～脚本ワークショップ～(泉大津市)

## 演劇の創作をとおして交流を図るプログラム

プロの演出家、普段あまり交流のない他校の生徒、ホールスタッフとの新たな交流の創出、新たな活動のきっかけ作りを目的として短期集中での演劇の創作を体験するプログラムを実施しました。新しい仲間との出会いや演出家やホールスタッフとの活発な交流を生み、色々な人と協力して創作する楽しさを改めて知ってもらうことができました。



演出家と演劇づくりを体験する高校生(酒田市)



ホールでの発表(酒田市)

## 地域拠点と連携したプログラム

地域で高校生の居場所の一つとなっているカフェを運営している団体と連携してワークショップを実施しました。地域の拠点となる場所と連携することで、地域課題の解決に向けて一緒になって考えることができ、今後の可能性を広げることができました。



「演出家と俳優と高校生が演劇で“おままごと”を遊びたおす会」(白河市)



「EMANON を劇場化して上演を遊びたおす会」(白河市)

## 荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）（山形県鶴岡市） 実施データ

実施団体	タクトつるおか共同企業体
実施ホール	荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
担当者	高橋幸介
実施期間	下見派遣 令和4年11月28日（月）～11月29日（火） 1回目派遣 令和5年1月17日（火）～1月20日（金） 2回目派遣 令和5年2月21日（火）～2月24日（金）
アーティスト等	アーティスト：福田修志 アシスタント：松本恵、田中俊亮
<p>■下見派遣内容</p> <p>11月28日（月）全体打合せ、小学校打合せ、宝さがし打合せ 11月29日（火）全体打合せ、地域資源視察</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>1月18日（水）8:40～10:15 鶴岡市立黄金小学校アウトリーチ（3・4年生） 10:40～12:15 鶴岡市立黄金小学校アウトリーチ（5年生） 15:00～17:00 職員インリーチ</p> <p>1月19日（木）14:00～16:00 教育委員会ワークショップ</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>2月22日（水）10:00～12:00 市内企業ワークショップ「コトバとカラダで伝える研修会」 2月23日（木）10:00～12:00 宝さがしワークショップ「タクト探検隊♪全力！宝さがし大会」 14:00～17:00 高校生ワークショップ「高校生のための演劇ワークショップ 発足？！タクト演劇部！」</p>	

## スケジュール

派遣	下見		1回目				2回目			
月日	11/28（月）	11/29（火）	1/17（火）	1/18（水）	1/19（木）	1/20（金）	2/21（火）	2/22（水）	2/23（木）	2/24（金）
9:00	移動	全体打合せ	移動	黄金小学校アウトリーチ①			移動	準備	準備	
10:00				黄金小学校アウトリーチ②		地域資源視察		市内企業WS	宝さがしWS	
11:00				昼食		昼食		昼食休憩	昼食休憩	昼食
12:00				昼食	昼食					
13:00	全体打合せ	地域資源視察	全体打合せ	準備	教育委員会WS	移動	全体打合せ	宝さがしWS準備	高校生WS	移動
14:00				職員インリーチ						
15:00	小学校打合せ	移動								
16:00	宝さがしWS打合せ								フィードバック	
17:00										
18:00										
19:00										
20:00										
21:00										

## プログラム詳細

「タクトでおじゃま」 えんげきアウトリーチ  
1月18日（水）8:40～10:15（3・4年生）  
10:40～12:15（5年生）

会場：鶴岡市立黄金小学校

参加者：3・4年生12名、5年生17名

アウトリーチでは、これまで2年間ダンスアウトリーチを実施してきた黄金小学校に伺った。両クラスとも初めは緊張した面持ちの児童が多かったが、アイスブレイク代わりのアシスタントによるパフォーマンスで顔がどんどん緩み、笑い声上がる柔らかい雰囲気になっていったのが印象的だった。

後半の「物語を生み出すワークショップ」では少人数のグループに分かれ、名前や性格のカードと3枚の写真から想像されるアイデアをもとに物語を創作、発表を見せ合って感想の交換を行った。

担任の先生からは「自己表現が苦手なクラスだと思っていたが、まっすぐに表現に向き合っていて新しい一面を見ることができた」と驚きの声を聞くことができた。



### 職員インリーチ

1月18日（水）15:00～17:00

会場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

参加者：7名（荘銀タクト鶴岡職員、市民アーティスト）

当館で初めて演劇の事業ということもあり、演劇にふれるためのインリーチを実施した。事業企画職員だけではなく技術スタッフ、ダンス事業で関わっている市民アーティスト、そして飛び入りで地域創造職員からも参加いただいた。

全員がほぼ見知った顔ということもあり、前半の頭の体操やコミュニケーションゲームから大きく盛り上がり、純粋に演劇のワークショップを楽しむことのできた時間となった。

実際に参加することで「演劇の手法を用いたワークショップ」とはどのようなものなのか、実体験を通して具体的なイメージを獲得でき、今後の事業企画に向けての手がかりを掴むことができた。



### 教育委員会ワークショップ

1月19日（木）14:00～16:00

会場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

参加者：9名（鶴岡市社会教育課職員、酒田市希望ホール職員、荘銀タクト鶴岡職員）

当館を所管している市教育委員会、直営ホールの酒田市「希望ホール」、そして当館の指定管理者であるタクトつるおか共同企業体、3つの違った立場の職員を対象としたワークショップを行った。

前半は演劇アウトリーチのあらましや他地域・当館での事例紹介などをレクチャーいただき、後半は前日の黄金小学校で行った「物語を生み出すワークショップ」を2グループに分かれて実際に体験した。想像を言語化することに苦戦したり、自由なアイデアを出すことに躊躇する場面が見受けられたが、アシスタントのお二人による的確なまとめによって2つの物語が生まれた時は達成感を得ることができた。

言葉や身体のコミュニケーションを通し、より深い交流が生まれたのではないかと思う。



市内企業ワークショップ「コトバとカラダで伝える研修会」

2月22日(水) 10:00～12:00

会場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

参加者：16名

これまで市内企業との関わりがほぼなかったため、これから関係性を築く第一歩になれば、と思い企画したワークショップ。どれだけの申込みがあるか未知数で不安の方が大きかったが、結果として営業職や接客業など様々な職種の10～40代16名から参加いただけた。普段の座学研修とはまったく違った内容に戸惑いや緊張する姿も見られたが、他者とのコミュニケーションを通して仕事のスキルアップを目指そうと懸命に取り組む姿勢が印象的だった。また、今回は鶴岡商工会議所の会報誌に募集チラシを折り込んだことにより、鑑賞の場だけではなくタクトを周知できたと同時に、企業との関係性を築くことができたのは大きな成果と感じている。



宝さがしワークショップ「タクト探検隊♪ 全力！宝さがし大会」

2月23日(木・祝) 10:00～12:00

会場：荘銀タクト鶴岡 大ホール、楽屋エリア、搬出入室

参加者：29名(子ども17名、大人12名)

これまでの「タクト探検隊♪」はテクニカル体験が中心だったが、建物としてのホールに親しんでほしいと企画したワークショップ。募集開始から1日で定員に達し、追加募集を行うも数時間で満員になるなど、反響の大きさに驚いた。

頭と体をコミュニケーションゲームでほぐした後は、宝箱を隠せる場所を探検して早速宝さがし大会スタート。2チームに分かれての対決ということもあり、福田さんの進行の中の「楽しく遊ぶにはルールが必要」という言葉のもと、子供だけでなく大人も本気になって宝さがしを楽しんでいた。

冬の寒さや雪の多さに外出が減る季節ではあったが、ホールを「遊び場」として活用することのできたワークショップとなった。



荘銀タクト鶴岡発  
**コトバとカラダで伝える研修会**

山形県山形市にある「コミュニケーション能力」を磨くには「練習」の大切さをまず学ぶ必要があります。そのためには「実践」が不可欠です。実践とは「実際にやってみる」ことです。実践を通じて「コミュニケーション能力」を磨くことができます。実践を通じて「コミュニケーション能力」を磨くことができます。実践を通じて「コミュニケーション能力」を磨くことができます。

2023年 **2月22日**(水)  
10:00～12:00

会場 荘銀タクト鶴岡 会議室  
参加費 無料  
対象 入社1～3年目の方  
定員 20名 ※定員に達し次第、締め切ります。  
服装 動きやすい服装でお越しください

講師 福田 修志氏  
F's Company 代表  
新井 隆 代表  
長崎 啓介 代表

申込方法 下記申込書にご記入の上、FAXにてお送りください。  
お問い合わせ 荘銀タクト鶴岡 0235-24-5188 (9:00-19:00)

2/22 ※「荘銀タクト鶴岡発 コトバとカラダで伝える研修会」申込み

荘銀タクト鶴岡 行 FAX:0235-25-7611		申込日	年	月	日
事業所	担当者	住所			
TEL	FAX	e-mail			
参加者	氏名	性別			部署

荘銀タクト鶴岡 2023年度 企画事業

**タクト探検隊♪ 全力！宝さがし大会**

フシギなカタチをした  
荘銀タクト鶴岡には  
面白い場所がたくさん！

みんなでタクトを探検したあと、  
チームになって  
ダカラモノをかくしちゃう！

いろいろな宝さがししたり、  
ヒントをきき出してみたり……  
冬のタクトで宝さがし大会、  
スタート！

2023. **2/23** (木・祝) 10:00～12:00

【場所】 荘銀タクト鶴岡 【対象】 小学生～高校生(小学生は保護者同伴)  
【定員】 20名  
【申込み】 2/1(日) 10:00～ ※定員になり次第締め切り  
【申込み先】 荘銀タクト鶴岡公式HP または窓口にてお申込みください。  
【参加費】 1人 500円 (両年の保護者は無料)

ナビゲーター：福田修志 (F's company 代表)  
制作：新井隆 (長崎 啓介)

お問い合わせ：荘銀タクト鶴岡  
電話：0235-24-5188

## 高校生ワークショップ「高校生のための演劇ワークショップ 発足?! タクト演劇部！」

2月23日(木・祝) 14:00～17:00

会場：荘銀タクト鶴岡 大ホール舞台上

参加者：11名

鶴岡市には9校の高校があるが、そのうち演劇部があるのは1校のみ。演劇部のない高校の生徒も演劇にふれることのできる機会を、という思いから企画した。実際に演劇部ではない生徒2名からの応募を見た時は内心でガッツポーズを決めた。

全体を通して3時間というボリュームのあるワークショップであったが、最初から最後まで全員が真剣なまなざしで臨む姿がとても印象的だった。自分の想像力から表現されるものを伝える姿勢、そして相手を受け取ろうとする姿勢、演劇のスキルアップはもちろん、今後の学校生活の中でも活かすことのできるワークショップ内容だったと思う。

大ホールの舞台上を会場としたが、空間が広すぎて持て余してしまうように感じる部分もあったため、事前に講師側との擦り合わせが必要だったと反省している。



荘銀タクト鶴岡 2022年度自主事業

### 高校生のための 演劇ワークショップ 参加者募集

**発足?!**  
**タクト演劇部!**

演劇に興味があるけど学校に演劇部がない！  
新しいことにチャレンジしてみたい！  
演劇のことをもっと深く知りたい！  
声優や俳優の仕事に興味がある！  
なんとなくパワーアップしたい！  
そんな高校生の皆さんと演劇にふれあう  
ワークショップを開催します。  
演劇の経験はまったく不要です。  
興味や好奇心をフル活用して、  
演劇に出会いましょう。


講師  
福田修志  
F's Company 代表  
劇作家・演出家・長崎佐佳  
制作の演劇活動しながら、日本各地の各地で  
演劇ワークショップを行う。  
演劇だけでなく、若手学生とコミュニケーション  
を深めるためのワークショップを企画・実施  
し、演劇の魅力を伝え、演劇部と一緒に活動すること  
をサポートしている。

2月23日(木・祝)  
14:00～17:00

- 会場 荘銀タクト鶴岡 大ホール舞台上
- 対象 高校生(部活・経験問わず)
- 参加費 無料
- 定員 30名 ※定員に達し次第締め切ります

【お問合せ】  
荘銀タクト鶴岡 0235-24-5188(9:00～19:00)  
<https://tact-tsuruoka.jp/>

お申込みは  
コチラ➡



主催：荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会 共催：一般財団法人演技創造

## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）は鶴岡市の文化芸術の拠点として平成30年（2018年）3月に開館した、比較的新しいホールである。アウトリーチやワークショップは令和元年度（2019年度）の公共ホール現代ダンス活性化事業を皮切りに、コンテンポラリーダンスを中心に継続して実施している。

本市では触れる機会の少ない「演劇」の手法を用いたワークショップなどを企画することにより、これまでとは違うターゲットへのアプローチの仕方を探り、ホールとしてどのようなプログラムを実施していくのが効果的かを知る機会としたリージョナルシアター事業に応募した。また、そのプロセスを通し、市民・アーティスト・地域（ホール）を結びつけられるコーディネート能力の習得を目指した。

### ●企画・実施において苦労した点

当館では初めて演劇事業に取り組むということもあり、企画から実施に至るまで「誰に、何のために」伝えたいのかを明確に言語化することの難しさを痛感した。この地域ではどんな課題があり、そこにどう演劇の力を使ってアプローチしたいのか、思い悩む場面が多かった。そんな中で全体研修会の際に固まっていた企画の内容にブレが生じてしまったが、Zoomを用いた福田さんと地域創造職員さんとの打ち合わせでアドバイスを頂いたり、企画への想いを綴った『高橋日記』の共有などを経て、現状を見据えた上での実施に向かうことができた。

また、高校生向けのワークショップでは同年度での実施となった酒田市「希望ホール」との連携となるような内容にしたいと考えていたが、高校の予定を確認しないまま時期を決めてしまった事により、酒田市の高校生からの参加が困難になったことが悔やまれる。対象が決まった上で連携を行うのであれば企画時点で相手方と密な相談を行うべきだったと反省している。

### ●プログラムを実施した成果

当館では初めての演劇事業ということで知識・経験の乏しい中での取り組みであったが、アウトリーチやインリーチ、様々な対象のワークショップなど多数の試みを行うことができた。各プログラムでのアンケートでは「また参加したい」「ぜひ継続してほしい」「違った対象に行ってほしい」といった声が多数あり、演劇に対する需要が鶴岡にもあることを知ることができ、今後の事業企画において更に視野が広がったように感じている。

また、これまであまり関わることのなかった層（市内企業の若手職員、高校生など）にアプローチしたところ、予想を上回る反応を頂けたことは大きな成果として捉えている。劇場は鑑賞の場だけではなく、学ぶことができたり遊ぶことができたり、様々な表情／役割を持つ場であることをアピールできたように思う。

苦労した点で前述したように企画時点から頭を悩ませる場面が多かったが、福田さんや地域創造の職員さんとの対話を重ねながら企画を練り上げていくことで、街や劇場についての新しい視点を得ることができたり、伝え方について深く考える力を養うことができた。

### ●今後の展望

今回のリージョナルシアター事業を通して様々な「出会い」が生まれ、そこから「可能性」が広がっていった。その可能性を活かしていくためには継続が必要。では継続していくためには何が必要なのか。そこに対するヒントを沢山いただいた。どんな想いをもって当館の企画として実施するのか、10年後にはこの街／劇場がどうなってほしいか、その10年間に何をどのように行っていくのか。開館して5年目を迎える当館として、地に足をつけて未来について考えていきたいと思う。資金調達の仕方など課題は多々あるが、今後も様々な企画に挑戦していきながら、福田さんのおっしゃる「劇場と一緒に街を考えてくれる仲間作り」をこれからも続けていきたい。



### 雪の街の助け合いと良い過程の作り方

福田修志

のどかな風景とお洒落な街並み。黒く輝く瓦屋根が多い山形県鶴岡市にある荘銀タクト鶴岡は、デザインフルな外観をして、城跡の近くに建っていました。実施日は1月と2月という雪の季節。僕は九州の人間なので、雪の洗礼を楽しみにしていたのですが、幸か不幸か、あまり雪は降ったりも積もったりもしておらず、ほどよい気候を楽しませていただきました。そんな鶴岡市の気候を楽しむことが出来たのも、劇場職員の皆さんの熱意とおもてなしの心があったからに他なりません。

「担当者一人に全てを押しつけず皆で解決する」という劇場の方針があり、打ち合わせの場に多くの職員さんが集まる光景は圧巻の一言。それは雪国ならではの「みんなで助け合う」という意識がそうさせているのかどうかは分かりませんが、まるで雪かきをするかの如くスクラムを組むその姿勢は、確実に担当者の力になっていたと思います。そしてその力は、アーティストを支える力へと繋がり、良い事業へと繋がるという好循環を生み出していると思います。ともすれば、孤独な作業が多くなり、「自分だけが働いている」という意識になりがちな劇場の仕事をみんなで少しずつ気にかけて、共有する。これが正解だとかは言うつもりはありませんが、なかなか出来ることではない方法なので、それを実行しているということが素晴らしかったです。

実施した企画の対象者は幅広く、劇場職員、教育委員会、企業の若手社員、親子、小学生、高校生、と多種多様な方々に「想像すること」や「伝えること・受け取ること」などを楽しんでもらえたと思います。特に、バックステージツアーを兼ねた「宝探し大会」には、応募が殺到し、わずか1日で定員に達し、追加募集をすることになるなど、劇場に対する期待の高さを感じられました。それはおそらく「2月という雪の季節に楽しめる場所が少ない」という地域性もあるとは思いますが、逆に言うと街の人に「必要とされている」ということになるとと思いますので、外遊びが出来ない時期に、劇場として何を提供することが出来るのか？という部分については、企画も含め、今後も考えていくべき地域課題だと思います。そしてそれは、なにも子供だけの話ではなく、一緒に参加することになる大人にも同じことが言えて、本気で宝探しや宝探しをしている大人たちは、子供たち以上にとても楽しそうでした。こういった親子企画の場合には「付き合いで来た」という意識から、「楽しむ」という意識へと変わることがとても大切で、子供も大人も一緒になって劇場で遊ぶことが出来るようになれば、今後の劇場に対するイメージや考え方という物は、少しずつ変わっていくと思います。

わりと良いイメージが多く残った荘銀タクト鶴岡での事業ですが、事前のコミュニケーションの部分では少し課題がありました。企画という物を立ち上げる時は、アーティストが「やりたいこと」を一方向的に企画するわけでも、担当者が「やって欲しいこと」を一方向的に投げかけるわけでもなく「お互いに作っていく」という意識が大切だと僕は思っています。そのために「今、何を考えて、何に悩んでいるのか？」ということや「こう考えてこうなった」という思考の過程を伝えるということがとても大切になってきます。独りで抱え込まずに、吐き出す。過程なので、中途半端で何の問題もありません。やりとりが面倒かとは思いますが、何度も繰り返した試行錯誤のコミュニケーションは、必ず良い結果に結びつくと信じて、アーティストと一緒に闘って欲しいなと思います。

## 希望ホール（酒田市民会館）（山形県酒田市） 実施データ

実施団体	酒田市
実施ホール	希望ホール（酒田市民会館）
担当者	池田 晶
実施期間	下見派遣 令和4年5月6日（金）～5月7日（土） 派遣 令和4年8月15日（月）～8月20日（土）
アーティスト等	アーティスト：田上 豊 アシスタント：田中美希恵、加賀田浩二
<p>■ 下見内容</p> <p>5月6日（金）ホール内、各施設下見、事業内容の検討。それぞれのワークショップの対象、目的を確認したうえで、内容の検討・アイデア出し。</p> <p>5月7日（土）前日の打合せで出された再検討事項の整理・確認。</p> <p>■ 派遣内容</p> <p>8月16日（火）10:00～13:00 高等学校演劇部向けワークショップ①</p> <p>8月17日（水）10:00～16:15 高等学校演劇部向けワークショップ②（※途中休憩あり）</p> <p>8月18日（木）13:00～16:00 市職員・関係団体職員向けワークショップ 19:00～20:00 演劇団体向けワークショップ①</p> <p>8月19日（金）18:00～20:00 演劇団体向けワークショップ②</p> <p>8月20日（土）10:00～11:30 フィードバック</p>	

## スケジュール

派遣	下見		1・2回目					
	5/6（金）	5/7（土）	8/15（月）	8/16（火）	8/17（水）	8/18（木）	8/19（金）	8/20（土）
9:00								
10:00		事業内容 相談		高校演劇部 WS①	高校演劇部 WS②			事業全体 フィードバック
11:00		移動						移動
12:00	羽田空港発	庄内空港発			休憩			庄内空港発
13:00	庄内空港着 移動・休憩	羽田空港着						羽田空港着
14:00	ホール着				高校演劇部 WS②	市職員 関係団体 WS		
15:00	会場下見 事業内容 相談		羽田空港発	翌日の 打合せ				
16:00			庄内空港着					
17:00			移動 ホール着					
18:00			事業打合せ					演劇団体 WS②
19:00						演劇団体 WS①		
20:00								
21:00								

## プログラム詳細

高等学校演劇部向けワークショップ「酒☆スタ 演劇部～ハイスクールメモリーズ」

8月16日（火）10:00～13:00

8月17日（水）10:00～16:15

会場：希望ホール大ホール舞台上 他

参加者：16日／23名、17日／19名

「酒☆スタ」は、希望ホール（スタジオ）での作品作りや活動を通じて、新たな活動・交流が始まる（スタート）することを目指し、演劇・ダンス事業を中心として令和4年度より開始。高等学校演劇部を対象とした「酒☆スタ 演劇部～ハイスクールメモリーズ」では、日頃交流のない、プロの演出家、他校演劇部生徒、ホールスタッフとの新たな交流の創出、新たな活動のきっかけ作りを目的として、庄内地域（酒田市・鶴岡市他3町）で活動する3校の高校演劇部員を対象に、2日間計8時間のワークショップを実施した。

1日目のワークショップでは、大ホール舞台上で、アイスブレイクとして「数え歌あそび」、「いす取り鬼ごっこ」など、いくつかのゲームを行い参加者の緊張を徐々にほぐしていった。その後、短い台本を3人一組となり演じるワークでは、田上さんとアシスタントのアドバイスを受けながら、普段演劇で使用するステージだけではなく、楽屋などの舞台裏や、客席、ホワイエなども舞台として使い、独創的な作品が仕上がった。ホール利用の可能性と自由性をより知ってもらうきっかけになったと思う。また、「伝え合う・助け合う・演じ合う」ことの大切さを学び、そこから生まれる創造性を知ることができたと感じた。後半では、2班に分かれて、宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を題材とした朗読劇制作に入った。演者の他、班から照明担当、音響担当を決め、ホールのテクニカルスタッフと一緒に効果的な演出方法を探ることとした。アシスタントの田中さん、加賀田さんが担当する①班は、朗読劇のイメージ・方向性がお二人から示され、直ぐに各々の配役に沿った動きやセリフの練習を始めた。一方、田上さんが担当する②班は、参加者たちが意見を出し合い、全てのことを自分たちでゼロから組み立てていくというスタイル。田上さんから大きく助言はせず、参加者同士のやり取りを見守るという形で創作をスタートした。それぞれの班、課題と不安を抱えながら1日目は終了。

2日目、①班は田中さん、加賀田さんのアドバイスの元、演者の具体的な動きや照明・音響の確認作業や、更なるアイデア出しが始まった。②班は田上さんを中心に舞台上で車座になり、1時間弱、参加者一人ひとりが昨日からの創作に関する不安や疑問を話した。それらに対して、田上さんは丁寧に寄り添いながら答え、このやり取りを経て②班は初めて一つになり、作品作りのスタートを切ることができた。

発表本番に向けて参加者全員、協力し合いながら、最後まで自分たちがイメージする世界観をどのように表現すべきか試行錯誤を繰り返し、創意工夫を重ねた。本番では、宮沢賢治の詩の世界観に正面からアプローチしながらも、幻想的な空間を創り上げた①班と、観る者の想像により、詩と現実の間を行き来するような感覚を覚える②班の、2つ全く異なる「雨ニモマケズ」の世界がホール内に広がり、演じ終わった参加者の表情は、協力し一つの作品を完成させることができた達成感と、2日間の充実した体験から得た満足感に溢れていた。

参加者からは、「他校の人とも作品づくりを通して信頼関係が築けて嬉しかった。また3校で集まりたい」、「演技をすることに正解がないということが一番心に残り、すごく考え直された」、「プロの方を通して新しい表現方法や考え方を知ることができた」、「ものすごい充実感を感じた。演劇以外にも通じる大切なことを沢山教えてもらい嬉しかった」等の感想があった。



### 市職員・関係団体職員向けワークショップ

8月18日（木）13:00～16:00

会場：希望ホール大ホール舞台上 他

参加者：21名

3日目は、市職員・関係団体職員向けのワークショップを実施。文化芸術事業に係る市職員間、関係団体間の連携体制づくりのきっかけとなることを目指した。市役所内13課、3団体から20代～50代まで、21人の参加となった。

参加者は演劇経験のない人がほとんどで、また初めて希望ホールに入るという人も多く、最初はやや固い表情だったが、田上さんの親しみやすいトークと、「いす取り鬼ごっこ」などのアイスブレイクのおかげで、すぐに和やかな雰囲気となった。その後、アシスタント2名を交えて4人一組となり、台本の空白部分とその背景を考えるとという短編作品づくりを行った。アイデアを出し合いながら協力することで、お互いの新たな一面を知ることができたとともに、創造することの面白さや想像の多様性を体験することができた。基本となる台本は同じでも、穴埋めしたセリフとそこに想像する背景によって、全く違う世界観の6作品が生み出され、それぞれの独創性と面白さ、熱のこもった演技に、拍手と歓声が沸き起った。

参加者からは、『想像』がどのような業務においても重要だと感じた」「研修ということを忘れて、演じる側も観る側も純粋に楽しめた。講師の方々も随所に細やかな工夫をされていて、大変勉強になった」「今回の演劇を通したワークショップの手法を、今後、業務の参考にしたい」「今まで関わりの無かった人の意見や考え方、他団体の活動内容を知れたのはとてもよかった」「とても有意義だった。もっと上の世代の職員にもこのワークショップを体験して欲しい」等の感想があった。



## 演劇団体向けワークショップ

8月18日（木）19:00～20:00

8月19日（金）18:00～20:00

会場：18日／希望ホール 小ホール、19日／希望ホール 大ホール舞台上

参加者：16名

庄内地域で活動する演劇団体を対象として、相互間の交流、ホールスタッフとの交流、ホールでの発表の提案、今後の演劇事業に向けてのネットワークづくりのきっかけとなることを目的としたワークショップを実施。6団体から、10代～60代まで、16名の参加があった。

1日目、前半は加賀田さんより岡山県で行われている様々な演劇活動について紹介があった。劇場内だけでなく、外にも多くの演劇の可能性が溢れているということを具体的な事例とともに話した。スクリーンに映し出される電車内での演劇風景や、一軒家を演劇の舞台として使用した市民参加劇の動画などに、参加者は興味津々な様子だった。後半は、参加者と田上さん、アシスタント、ホールスタッフが車座になり、意見交換を行った。本事業担当者から、「このワークショップをきっかけに、地域の演劇団体と交流を深め、将来的に共同の作品作りに繋げていきたい」と話すと、参加者からはそれぞれ演劇にかける想いや夢、今後の活動展望などが活発に語られた。

2日目は、大ホール舞台上で3人一組の作品づくりを行った。配布された台本を基に、どのような演出で表現するか、ホール内のどの場所を舞台にして演じるかなど、田上さんとアシスタントから助言をもらいながら、アイディアを出し合い作品をつくり上げていった。最後にホール内の様々な空間を利用して、それぞれの組が発表。大ホール客席を端から端まで使用することで広大な「畑」でのやり取りを表現した作品、ホワイエの長椅子の上を屋根裏に見立て、そこに潜む「暗殺者たち」の緊張感をコミカルに表現した作品、階段を使い合戦最中の武士たちの切羽詰まった心情を表した作品など、その演技力と迫力、独創性に驚かされた。年齢・性別の差異、所属する団体の垣根を超えて、熱心に協力し合い作品づくりに取り組む姿がとても印象深く、連携した演劇事業の展望が期待できると感じた。

参加者からは、「いろいろな人たちの演技を見ることができて楽しかった（中学2年生）」「演出家や役者さんと交流できてとても貴重な体験ができた（中学3年生）」「様々な演劇の形を知ることができ、視野が広がった（大学1年生）」「設備の整った劇場でなくても、何かできるかもしれないと思った。普段交流の無い、他の団体の方と一緒に活動できたのも良かった（40代）」「地域の演劇関係者が一同に集まったこと、共に芝居ができたことがとても良かった（50代）」等の感想があった。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

希望ホール（以下「ホール」という）は2004年の開館当初より、事業の企画・運営について市民団体に大きく任せ、買取公演や貸館事業を中心に運営してきました。2018年に、酒田市文化芸術基本条例および酒田市文化芸術推進計画を策定したことをきっかけに、市職員が自主事業を企画制作することとなりましたが、それまでの運営体制の影響から、ホール利用者との交流も薄く、職員の人材育成も手付かずで、演劇を含む事業全般の企画・制作に係る経験値も低いため、効果的な事業展開を行うことができていませんでした。加えて、長年、行政が自主事業に積極的に携わってこなかったことにより、市役所庁内や関係団体から芸術文化に対する理解・協力を十分に得られていません。結果、今日まで、ホールが地域住民の文化芸術活動・交流の場となれていないのが現状です。今後の演劇事業の実施に向けて経験を積みたい、ホール利用者・関係者との交流を図りたいと考え、今回のリージョナルシアター事業に参加しました。

高等学校演劇部向けワークショップでは、プロの演出家・他校生徒・ホール職員との交流から、新しい気づき・反応が生まれ、新たな活動やホール利用の可能性の創出に繋がることを目指しました。また演劇団体向けワークショップでは、他団体・ホール職員との交流、自主（演劇）事業に向けてのネットワークづくりのきっかけとなることを期待しました。市職員・関係団体職員向けワークショップでは、相互理解を深め、より積極的に協力し合える関係性を構築するきっかけとなればと考えました。

### ●企画・実施において苦労した点

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、今年度の高等学校の授業カリキュラムがかなり混んでおり、事業実施時期の調整が難しかったです。各ワークショップの実施においては、感染対策を徹底しながらも、演劇に必要なコミュニケーションをとれるよう十分に配慮しました。

### ●プログラムを実施した成果

高等学校演劇部向けワークショップを行うにあたり、実施した事前アンケートにより各学校がプロの劇作家・演出家や役者とのふれあいに興味があり、また他校演劇部員やホールスタッフとの交流を希望していることが分かりました。その内容を田上豊さんにお伝えしたところ、丁寧にプログラムを組んでいただいた結果、参加した生徒の皆さんからは、存分にワークショップを楽しんでもらうと共に、創造する楽しさと可能性を改めて知ってもらうことができた、充実した活動内容になったと感じています。各部の顧問の教員からも、「このような魅力的なワークショップは初めてです。どうやって企画したんでしょうか」「生徒たちにとっても我々教員にとっても、非常に有意義で楽しいワークショップでした」「コロナ禍で、思い通りに活動できない日々が長く続いています、今日は本当に生徒たちが生き生きとしていました」と、高い評価をいただきました。

連携体制づくりを目的とした市職員・関係団体職員向けワークショップでは、文化芸術に業務上馴染みの無い職員も数多く参加しました。最初は「演劇」に戸惑いもあり、緊張気味の参加者もいましたが、田上さんとアシスタントの皆さんのおかげで、すぐに全体が打ち解け終始和やかな雰囲気で行進しました。驚いたのは、私の想像を大きく上回り、参加者全員、とても積極的にワークショップに取り組んだことです。アイスブレイクの「いす取り鬼ごっこ」から始まり、4人一組での短編作品作りなど、普段の生活で全く経験しない事柄に対して、ほぼ初めて会った者同士が汗をかきながらアイデアを出し合い最後まで協力しあう姿に感動しました。まさにプロの講師による「演劇の力」、「想像の多様性」の成せる技だと思いました。

演劇団体向けワークショップでは、事前アンケートによりホールでの活動とホールスタッフとの交流が非常に少なく、また他団体との交流を望んでいるが実現できていない団体が有ることが分かりましたので、その課題の解決の一助となるよう、プログラムを組んでいただきました。参加者16名、所属団体も年齢層も異なりましたが、演劇への情熱と、講師・ワークショップへの期待感から、すぐに会場は熱気に包まれました。私たちホールスタッフと顔を合わせるのが初めての参加者がほとんどでしたが、今回のワークショップでお互いの考えや状況、展望を知ることができ、今後様々な演劇事業と一緒に展開していける期待を感じました。

### ●今後の展望

「演劇」の手法による様々な角度からのアプローチによって、人と人、人とホールの間にも自然と交流が生まれ、お互いの理解が深まることを体感しました。今後も、「酒☆スタ」を始めとした人材育成事業と交流事業を継続させていくことで、ホールが創造・交流の場となり、地域の皆さんから親しまれ必要とされる場となることを目指していきます。

### 希望という名に相応しいコレクティブな劇場を目指して

田上 豊

山形県酒田市は、山形県唯一の重要港湾である酒田港と庄内空港があり、日本海と鳥海山の自然に恵まれ、庄内平野で育った良質な庄内米と鳥海山の伏流水で造られる日本酒が特産品である。中細ちぢれ麺と魚介系スープが特徴の酒田のラーメンや酒田港で水揚げされる海の幸などを求め、県内外からの観光客も多い。第8回住みたい田舎ベストランキング（令和2年1月）：人口10万人以上「大きなまち」の「シニア世代が住みたい田舎」部門 全国1位、総合部門 同4位だそうである。と、ここまでをWikipediaから抜粋したことを白状します。なぜなら、私にとってこれまでの酒田市は、「妻の地元であり、正月に帰った際に子供を連れて買い物に行くことのできる重要な街」でしかありませんでした。（ちなみに妻の出身地は厳密には酒田市のお隣の遊佐町）そこへ此度の希望ホールさんのリージョナルシアターへのエントリーによって、妻の地元のことに詳しくなりました。この場を借りて個人的に感謝を申し上げますと共に、そのお礼も兼ねて報告書冒頭に酒田市のPRを挿入させて頂きました。

さて、夏休み期間に一回にまとめて実施された酒田市・希望ホールのリージョナルシアターですが、展開したどの取り組みにも有意義な時間が溢れていました。庄内地方の高校演劇部を集結させ、比較的時間をかけて行なった集団創作では、劇場スタッフの力も借りてフルスペックの活動となりました。出演希望者へはプロの実演家による演出や演技指導を施し、スタッフ希望者には劇場スタッフのマンツーマンに近い実践的な指導をしていただきました。ここで得た経験をそれぞれの部活動の今後に生かして頂きたいと思います。庄内の高校生には逸材が多かったので、この地域の高校生たちといつか本格的にクリエイションに取り組んでみたいです。希望ホールさん、ぜひ企画してください。

次に「地元の表現者（団体）枠」として、庄内地域の様々な劇団（表現集団）に集まってもらいました。この枠のWSを実施するために希望ホールの皆さんが地域で現在活動している劇団や集団を洗い出してくれたことで、地域の表現者たちの様子や現状が見えました。とても興味深い「地域表現者の言い分」に触れる機会にもなり、良質なタウンミーティングとしても機能したのではないのでしょうか。庄内には年齢層の高い劇団もあれば、立ち上がったばかりのフレッシュなカンパニーもあり、非常にバラエティに富んだ豊かなグラデーションを感じました。この力を結集してプロダクションを形成し、強固な市民劇を創ると非常に面白そうですね。希望ホールさん、地域表現者たちの期待（声）に応えてこちらもぜひ企画してください。

最後に今回の酒田市リージョナルの本丸であった「市職員向けインリーチ」について触れたいと思います。希望ホールの担当者・池田さんは、この度のリージョナルに応募した動機を「行政職員間において文化活動の意義と醍醐味を共有したい、また共有した上で、時には一枚岩になれるくらいの協働性が発揮できる共同体になりたい」と述べてらっしゃいました。そして、「まずは風通しを良くするところから」ということで演劇WSをオーダーされました。「演劇WSなのに無茶を言うなあ」と喉元まで出た言葉を引っ込め、粛々とコミュニティの活性化を目指したWSを展開しましたが、その効能がどうだったかは現在の職員間の関係性（雰囲気）でしか知り得ることができません。演劇WSは問題解決の特効薬ではありませんが、演劇の活動を共にすることで参加した皆さんが仲を深めるきっかけづくりには力を発揮します。このきっかけを元にさらなる共同体としての強化を目指し、今後は希望ホールさんの方で様々仕掛けていていただきますようよろしくお願いします。

全体的に備忘録みたいになってしまいましたが、酒田市希望ホールさんにはこれからの期待が非常に大きく、どんな形であれアーティストとしても再び一緒に事業を進めてみたいと思える劇場でした。また機会があれば、今度は家族の帰郷も兼ねて山形に舞い戻りたいと思います。明るく愉快でとても素敵な劇場の皆さんに再会できること切に願ひ、さらなる希望ホールの飛躍を楽しみにしています。「月」シリーズのラーメン、本当に美味しかったです！

## 白河文化交流館コミネス（福島県白河市）実施データ

実施団体	NPO 法人カルチャーネットワーク
実施ホール	白河文化交流館コミネス
担当者	佐々木郁哉
実施期間	下見派遣 令和4年9月29日(木)～9月30日(金) 派遣 令和5年1月14日(土)～1月17日(火)
アーティスト等	アーティスト：多田淳之介 アシスタント：大川潤子
<p>■下見派遣内容</p> <p>9月29日(木) コミネス打合せ、市内視察、大信小学校下見・打合せ</p> <p>9月30日(金) 白河南中学校下見・打合せ（※本番スケジュールの変更未実施）、EMANON 打合せ、コミネス打合せ</p> <p>■派遣内容</p> <p>1月14日(土) 16:30～18:30 EMANON ワークショップ①「演出家と俳優と高校生が演劇で”おままごと”を遊びたおす会」</p> <p>1月15日(日) 11:00～17:00 EMANON ワークショップ②「EMANON を劇場化して上演を遊びたおす会」</p> <p>1月16日(月) 10:35～12:10 白河市立大信小学校（3年生）アウトリーチ 14:30～16:30 職員インリーチ①（演劇ワークショップ体験）</p> <p>1月17日(火) 10:30～12:00 職員インリーチ②（企画事例紹介） 13:30～15:30 職員インリーチ③（企画を考えてみる）</p>	

## スケジュール

派遣 月日	下見		派遣			
	9/29(木)	9/30(金)	1/14(土)	1/15(日)	1/16(月)	1/17(火)
9:00	移動		移動			
10:00			打合せ	EMANON WS ②	大信小学校 アウトリーチ	職員イン リーチ②
11:00	南中学校 下見					
12:00	打合せ	昼食				
13:00	市内視察					
14:00		EMANON 打合せ			職員イン リーチ③	
15:00	大信小下見			職員イン リーチ①		
16:00					フィード バック	
17:00	打合せ	移動	EMANON WS ①			
18:00						
19:00						
20:00						
21:00						



## プログラム詳細

### EMANON ワークショップ① 「演出家と俳優と高校生が演劇で“おままごと”を遊びたおす会」

1月14日(土) 16:30～18:30

会場：コミュニティ・カフェ EMANON

参加者：7名

地域で高校生の居場所の一つとなっているコミュニティ・カフェ EMANON で、高校生を対象にWSを実施。1日目は、演劇の原点とも言える”おままごと”を遊びたおす会です。

簡単に自己紹介をした後、名前を呼ばれたら他の人の名前を呼ぶゲームを行いました。手拍子も加えて、名前と手拍子のボールがそれぞれいろいろな人に渡っていきます。緊張気味だった参加者も次第にリラックスしていききました。

それから、2グループに分かれて家族の中で起こる不満やトラブルを挙げていきました。「迎えの時間」「お風呂の入る順番」「三者面談」「県内の大学に行くように言われる」など、生活上の問題や進路の問題が様々挙がりました。最後は、それらの問題が起こる場所や登場人物、展開を大まかに決めて、即興の“おままごと”を見せあいました。どちらのグループも高校生の進路を巡る家族のやりとりでしたが、リアルな少し重苦しい雰囲気の家会議もあれば、宝くじが当たってお金の心配がなくなるといった展開もありました。日常的なことも非日常的なことも、参加者の家族観や価値観、不安や願望が反映されているようでした。「普段は人に話せない家庭のことを話せた」という感想もあり、演劇あそびを活用したからこそその効果を感じました。参加者の満足度も高く、2日目も引き続き全員が参加することになりました。



### EMANON ワークショップ② 「EMANON を劇場化して上演を遊びたおす会」

1月15日(日) 11:00～17:00

会場：コミュニティ・カフェ EMANON

参加者：9名

2日目は、EMANON を劇場化して上演を遊びたおす会を開催しました。コミネスのスタッフも舞台道具や照明・音響の機材を持ち込み、劇場化への準備をして臨みました。

前日と同様のシアターゲームをして頭と身体をほぐした後、多田さんから、金子みすゞや茨木のり子、谷川俊太郎などの近現代詩が書かれたペーパーが配られました。輪読した後、参加者それぞれが共感できる詩を選び、同じ詩を選んだグループでその詩を上演することになりました。詩を選んだ理由や感じたことを共有し、伝えたい感情がどうやったら伝わるか演出を考えていきます。初対面の人がほとんどのなかでそれぞれの価値観やセンス、考え方をすり合わせる作業は大変そうですが、自分とは違う見方があることを楽しんでいるのが印象的でした。

上演では、関係者やカフェのお客さん、他のグループが観客になりました。照明の色や音響の効果によってイメージがひっくり返る演出もあり、朗読しただけでは感じられなかった上演ならではの表現が立ち上がりました。「一から表現するのが楽しかった」「ほかの人の表現を見るのが楽しかった」と、自由に表現すること、表現を自由に受け取ること、感想を共有することを「劇場」で楽しむ会となりました。



## 白河市立大信小学校アウトリーチ

1月16日(月) 10:35～12:10

会場：大信小学校体育館

参加者：23名(3年生)

3校が併合して令和4年度から新しく開校となった大信小学校でアウトリーチを行いました。はじめに多田さんから、英語でPLAYは「遊ぶ」という意味の他に「劇をする」という意味もある、今日は演劇で色々な遊びをしましょうとお話があり、エア大縄跳びの遊びからはじまりました。多田さんとアシスタントの大川さんが大縄を回す動作をすると、子どもたちが躊躇いなく目には見えない縄を次々と跳んでいきます。さらに、回し手の片方が動作をやめると、縄が見えなくなり、再び回し始めると見えるようになることを発見。「演劇遊びでは、目に見えない物が見えるようになることが分かりました」という感想がありました。

好きな物が同じという人で集まった後、今度は、本当は嫌いなものを好きなふりをするゲームをしました。「どんなところが好き?」「臭いところ」といったやりとりがあり、嘘から生まれる面白さなどを楽しみました。

ジェスチャーゲームでは、相手にうまく伝えるために表現を工夫し、伝わらないもどかしさや伝わった時の嬉しさを楽しみました。最後はその延長で、一人ではなく複数人で協力して大信小学校のお気に入りの場所を身体で表現しました。「みんなうまく表現していて良かった」と他人の表現の良い所を見つける機会になりました。「またやりたい!」「楽しかった!」という感想をたくさん頂きました。



## 職員インリーチ①(演劇ワークショップ体験)

1月16日(月) 14:30～16:30

会場：白河文化交流館コミネス 大ホール

参加者：14名(コミネス9名、白河市東文化センター1名、白河市文化振興課1名、しらかわ演劇塾3名)

演劇的手法を取り入れたWSを体験するインリーチ。劇場職員だけでなく、市の文化振興課職員や、地域で活動しているしらかわ演劇塾の方にも参加いただきました。

まずは参加者が名前を呼びあうところから始まり、お互いに話しやすい雰囲気がつくられていきます。本当は苦手なものを好きなふりをするゲームや、割り振られた数字の大きさにあわせて質問の答えを用意するゲームでは、「演じること」が自然に導入されていきました。お題に対する答えは人それぞれで、嘘をつくにも、その人の価値観がまずベースにあることに気づきます。そして、その価値観は他人と異なって当たり前という意識もこうした遊びで共有できるように感じました。堂々と嘘をつくことも楽しみました。

それから、4人でしりとりを1分間した後に、それを再演するというのをしました。台詞や仕草を思い出して再演してみますが、なかなかぴたり1分では終演しません。世界を再現する面白さと難しさを体験しました。自分の役ではなく、隣の人の役になった時には、他者の目線で物事を考える機会になりました。演劇WSと聞くと、「演技をさせられる」イメージを持つ方が多いですが、身近な題材を使って、成果を求めない「遊び」にすることで、誰でも自然と「演じること」を楽しむことができました。この参加しやすさがあればあらゆる対象にWSを実施することができると感じました。



## 職員インリーチ②（企画事例紹介）

1月17日（火）10:30～12:00

会場：白河文化交流館コミネス大ホール

参加者：9名（コミネス7名、白河市東文化センター2名）

今後の企画づくりの参考にするため、多田さんから地域社会の課題や、公共ホールのミッション、キラリ☆ふじみでの取り組み事例等をお話いただきました。

多田さんの自己紹介や劇場法の振り返りなどを経て、幼児教育では誰もが行う生活の中の楽しみであったアートが、義務教育以降は特別な技術を習得した芸術家が担えばよいものと思われている現状の課題が話されました。そして、市民が多様なアートを享受し、表現する場としての公共ホールの重要性が説かれました。

キラリ☆ふじみが採用しているアソシエイトアーティストの取り組みでは、アーティストが市民向けにワークショップをしたり、アーティストと市民と一緒に作品を創造したりするアーティストと市民との中長期的な関係性が参考になりました。また、観客が自由に移動して観て回れる作品や、ホール以外の場所で上演される作品からは、劇場の間口を広げる可能性を感じました。

菅原直樹さんによる「OiBokkeShi」老いと演劇のワークショップの映像では、介護施設でのロールプレイングを興味深く拝見しました。「演じること」を活用して、認知症の方の感情に寄り添う姿勢が大変参考になりました。社会に演劇を役立てる為の様々な可能性を知ることができました。



## 職員インリーチ③（企画を考えてみる）

1月17日（火）13:30～15:30

会場：白河文化交流館コミネス大ホール

参加者：9名（コミネス7名、白河市東文化センター2名）

地域の特性から企画を考えるワークショップ。2、3人のグループで、まずは白河の良い所と悪い所を挙げていきました。良い所に挙げたのは、歴史や伝統文化があること、食べ物が美味しいこと、自然の豊かさ、アクセスの良さなど。悪い所は、美術館・映画館がない、大学が無い、少子高齢化、商店街が寂しい、子どもの遊び場が少ない、などなど。課題が沢山挙がりました。それから、10年後を見据えて「良い所でなくなってしまう可能性が高いもの」、「悪い所でさらに悪くなってしまう可能性が高いもの」を取り上げ、それらの課題解決に繋がる企画を考えていきました。多田さんから「アートを活用すること」というルールが提示されると、課題とアートをうまく結びつけるのに苦労する場面も見られました。商店街とアーティストのコラボによる街の賑わいや、ダンスを使った多世代交流など、すでにあるものに新しい要素を掛け合わせたり、アートを使って交流の場を生みだしたりする企画が生まれました。どのような街になってほしいのかを長期的な目線で想像し、企画を考える事が大切だと思いました。また、アートを文化芸術の領域を超えて他分野にも活用していくために、様々な取組から学んで引き出しを増やしていく必要性も感じました。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

これまで、音楽とダンスのアウトリーチの実施経験はあるものの、演劇のアウトリーチは未経験でした。また、これまで実施した演劇のWSは、劇作WSなど、演劇活動をしている方々を対象にした事業に限られていました。リージョナルシアターは、演技や脚本創作を磨くための事業ではなく、「演劇の手法を使ったワークショップ」を地域の課題に合わせて自由に企画できるということで、まだ演劇との関りが少ない方々へもアプローチしていける機会だと考え参加しました。公演への来場者としてホールと関わりのある市民のほとんどが60代以上の高齢者であり、ワークショップを通じて、とりわけ地域の若い層とホールとのつながりを築いていきたいと考えました。また、インリーチを実施することで、劇場や自治体の職員が演劇的手法によるワークショップの効果や可能性を体感し、学んだことを今後の事業策定に活かしていく狙いもありました。

### ●企画・実施において苦労した点

・実施先となった学校やカフェでは、使い慣れているホールとは異なるスケジュールや場所の特性があるため、そのことによく配慮して調整する必要がありました。また、その実施場所にあるもの、いらっしゃる方々も様々ですので、用意してほしいものを明確にすることや、実施先の方々にはどのように関わってほしいのかを事前にしっかり伝えることが大切だと思いました。

・演劇的手法を用いたWSもアーティストによって方法や内容が異なるため、その違いをどう捉えて今後の事業に繋げていくべきなのか悩みました。今後、多田さん以外のアーティストや地域の演劇団体ともアウトリーチ等を実施する際には、その違いを理解して実施する必要があると思いますが、様々なアーティストの手法を現場で見て、学んでいながら、地域や対象にあった企画を考えていきたいです。

### ●プログラムを実施した成果

ホールや演劇との関わりがまだ少ない市民を対象にプログラムを実施したい思いが強かったので、ホールから離れた地域の学校の児童や、コミュニティ・カフェ EMANON に集まる高校生たちにWSを楽しんで頂けて良かったです。他の団体と連携し、ホール以外の場所でWSを実施することで、ホール発信だけでは繋がることができなかつた方々と繋がることができました。また、「演劇ワークショップ」と名付けてしまうと参加のハードルが上がりがちですが、WSの始めに「遊びましょう」と呼びかけたり、「演劇で遊びたおす会」といったキャッチーなネーミングを付けたりする多田さんの遊ぶ姿勢が大変参考になりました。インリーチでは、「演じさせられる」と参加に消極的だった職員でも楽しく参加することができ、いわゆる「演劇」に抵抗がある人でも「演劇遊び」なら楽しめることが分かりました。そして、事例紹介や企画を考えるWSを併せて実施したことで、事業課以外の職員からも演劇的手法を用いたワークショップに対する前向きな理解を得られたように思います。演劇の手法の多様性や寛容性、そして有効性を実感することができ、演劇を地域社会に役立てていく可能性を様々に見出すことができました。

### ●今後の展望

文化芸術を通じた豊かな時間を、ホールとの関わりがまだ少ない方々にもより多く味わっていただけるように、今回の実施先であった学校現場やコミュニティ・カフェ EMANON との繋がりを継続しつつ、福祉施設など他分野の団体との連携も検討していきたいです。また、まだアプローチが足りていない子育て世代については、子育てで抱える問題を演劇遊びで共有する場としての「ママ友を演じる会」といったアイデアも多田さんからいただきました。他者と話しやすくなったり、悩みを共有しやすくなったりする演劇の有効性を市民生活に役立てていきたいです。また、地域の演劇団体「しらかわ演劇塾」が様々な現場でアウトリーチを実施していけるように、地域団体からの要望を演劇塾に引き継ぐなど、芸術文化を担う地域住民の活躍の場も確保していきたいと思います。おんかつ、ダン活、リージョナルシアターと実施してきて得たノウハウから目的や対象にあった企画を考え、市民が多様な文化芸術を享受できる創造的なプログラムをホールで実施していきたいです。

### 地域拠点の活用

多田淳之介

この事業は参加団体との入念な（！）打ち合わせからプログラムを決めていきますが、今回の白河文化交流館コミネスさんとは地域拠点との連携を中心に考え、コミュニティ・カフェ EMANON での高校生対象の演劇の手法を使ったワークショップ、小学校へのアウトリーチ、劇場職員や地域の演劇従事者への地域での事業を考えるインリーチというプログラムになりました。

印象的だったのは、やはりコミュニティ・カフェ EMANON での高校生とのワークショップでした。EMANON は、大学のない白河市（大学生になると街を出てしまう）の高校生のためのサードプレイスとして 2016 年にオープンした“高校生びいきの古民家カフェ”です。ドリンクも学割料金があったり、高校生は注文をしなくても店内を利用できたり、一般料金の収益の一部が高校生の活動を支援するために活用されたり、高校生たちが大人や地域や未来とつながる拠点になっています。すでにカフェに集う高校生が劇場のワークショップに参加してくれたり劇場との連携も生まれていて、今回の EMANON を会場としたプログラムにつながりました。EMANON 室長の青砥和希さんとの打ち合わせで、今の高校生にとって家族の話は気軽にできない部分もあり、その分相談もしにくかったり、しっかり関係を築かないと話せないことでもあるからこそ、演劇を通じてシェアする体験ができないかという提案があり、ワークショップでは「家族」をテーマにすることにしました。地域で高校生たちと日々触れている視点からテーマが設定できたことはとても良かったです。

広報では“家族”という言葉は直接出さずに、「演出家と俳優と高校生とが演劇で“おまごど”を遊びたおす会」というタイトルで実施し、高校生たちも創作の過程で自然と自分の体験や家族の話をシェアしながら“おまごど”を上演してくれて、青砥さんもその日出会ったばかりのメンバーで自然に自分の経験をシェアできることに驚かれています。EMANON ではもう一つ「EMANON を劇場化して上演を遊びたおす会」として現代詩の上演を創るワークショップも開催しました。こちらも現代史を通じて高校生たちが自分たちのことを考え、人に伝えるという演劇上演の原点を体験してもらえたことと、劇場の舞台スタッフが機材も持ち込み参加してくれたことで上演のクオリティが上がったのはもちろん、高校生たちと劇場のつながりがまた一つ生まれて、とても良い場となりました。

今回のケースのような地域拠点の活用というのは劇場の活動として今後さらに大切になってくるでしょう。劇場には良くも悪くも来てもらわないといけないという特徴があります。だからこそアウトリーチが必要なのですが、それでも劇場だけで舞台芸術による地域の芸術文化活動を担うのは難しいだろうと思います。もちろん劇場が地域の芸術センターとして中心を担うべきだとは思いますが、中心があるならばその外郭を担える場所や人が地域に必要なだろうと常々感じています。といっても地域に芸術文化活動を担える場所や人が居ないのが現実、かもしれませんが実はそうでもないと思っています。組むべきところはカフェでも良いし、福祉施設でもいいし、塾でもいいし、その地域のことを考えている人たちであれば十分地域拠点になり得ると思います。劇場から地域舞台芸術の知恵を地域に持ち込んで活用してもらい、それが劇場と地域のネットワークになり、劇場の衛星拠点として、劇場に来なくても、その街に劇場があることで地域の生活が豊かになるということにつながるのだと、今回のリージョナルシアターを経て改めて感じました。

## 横浜市市民文化会館関内ホール（神奈川県横浜市） 実施データ

実施団体	かんないアート&メディアパートナーズ
実施ホール	横浜市市民文化会館関内ホール
担当者	渡辺明美
実施期間	下見派遣 令和4年7月20日（水）～7月21日（木） 1回目派遣 令和4年10月20日（木）～10月23日（日） 2回目派遣 令和5年2月3日（金）～2月6日（月）
アーティスト等	アーティスト：福田修志 アシスタント：松本 恵、田中俊亮
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>7月20日（水） 打合せ、街歩きツアー下見、商店街あいさつ、会場下見 7月21日（木） 打合せ</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>10月21日（金） 10:00～14:30 馬車道街歩きツアー～みんなで馬車道100選を作ってみよう～① 10月22日（土） 10:00～14:30 馬車道街歩きツアー～みんなで馬車道100選を作ってみよう～②</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>2月4日（土） 10:30～15:00 親子で楽しむわくわくタイム「親子でめぐる馬車道街歩き～街の謎を探してみよう～」 2月5日（日） 10:00～11:45 親子で楽しむわくわくタイム「親子でホール探検～ヒミツのお話～」① 13:30～15:15 親子で楽しむわくわくタイム「親子でホール探検～ヒミツのお話～」②</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
月日	7/20（水）	7/21（木）	10/20（木）	10/21（金）	10/22（土）	10/23（日）	2/3（金）	2/4（土）	2/5（日）	2/6（月）
9:00										
10:00	移動	打合せ	移動	街歩き ツアー①	街歩き ツアー②	視察	移動	親子で巡る 馬車道 街歩き	親子でホール 探検①	
11:00										
12:00										
13:00	打合せ 街歩き下見	日程調整 打合せ				移動	打合せ 会場準備	振り返り 打合せ	親子でホール 探検②	移動
14:00										
15:00	商店街挨拶 会場下見	移動	街歩き下見 打合せ	会場設営 振り返り	片付け 振り返り 2回目派遣 打合せ				振り返り	
16:00										
17:00										
18:00	街歩き 下見	移動								
19:00										
20:00										
21:00										

## プログラム詳細

馬車道街歩きツアー～みんなで馬車道 100 選を作ってみよう～①②

10月21日(金) 10:00～14:30

10月22日(土) 10:00～14:30

会場：馬車道周辺、関内ホール・リハーサル室

参加者：22名

午前は、参加者同士の緊張感をほぐすアイスブレイクの後、どういった視点で歩くと良いのか説明の後、横浜と同じ港町・長崎からやってきた劇作家・演出家の福田修志氏と一緒に、関内ホールのある馬車道の街を歩きました。写真発祥の地・馬車道にちなんで、自分が気になったり、おもしろいと思ったり、お気に入りの場所などの写真を撮って、街の魅力をリサーチしました。

午後は、各自がセレクトした写真をお披露目して、感じたことなどを共有し、タイトルをつけて馬車道 100 選を選びました。

この馬車道 100 選は、福田さんのご厚意により編集していただき、現在、関内ホール正面入り口のデジタルサイネージで、馬車道の隠れた魅力として映像を流して発信しています。



親子で楽しむわくわくタイム 親子でめぐる馬車道街歩き～街の謎を探してみよう～

2月4日(土) 10:30～15:00

会場：馬車道周辺、関内ホール・リハーサル室

参加者：8名

「親子で楽しむわくわくタイム」として実施しました。

「親子でめぐる馬車道街歩き～街の謎を探してみよう～」では、午前馬車道を歩きながら、それぞれが不思議に思ったり、面白いと思ったりした物を見つけて写真を撮りました。

午後からは、撮った写真の不思議に思ったことや感じたことのワード「謎ワード」を考えました。さらに、会場に街歩きをした通りを再現して、各自が撮った写真を撮影したであろうと思う場所に置き、「謎ワード」とどの写真が組み合わせるのか、謎解きクイズをしました。

印象的だったのは、ワークショップが終わっても名残惜しそうに講師との会話を楽しんでいた子供たちでした。



親子で楽しむわくわくタイム 親子でホール探検～ヒミツのお話～①②

2月5日(日) ① 10:00～11:45 ② 13:30～15:15

会場：関内ホール・小ホール

参加者：16名

冒頭に、参加者が思いついた言葉をそれぞれに書いた紙をアシスタントのお二人が拾いながら、その言葉に導かれるままに即興劇を披露しました。バラバラに書いた言葉がお芝居となってつながっていく様を見ながら、子供たちの楽しげな笑いがホールを満たしました。

その後、いつもは入れない舞台の裏側(調整室、舞台袖、楽屋、搬入口など)を、舞台スタッフの案内で見て回りました。調光卓で照明をつけたり、音響卓やサンプラーを操作して効果音を出したり、照明スポットを持つ体験もするなど、安全に配慮して、自由に機材に触る体験をしました。

ホール探検をした後は、それぞれが印象に残ったモチーフや場所で思い描いたお話を作り発表しました。親子で今回のような体験をしたことで、家に帰ってからも会話が増えたのではないのでしょうか。また、普段は入れない場所に入ることで、よりホールや舞台を身近に感じてくれたのではないのでしょうか。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

毎年5月に、子供向けの演劇ワークショップをやっているのですが、担当者も変わり、新しいことにチャレンジしてみようと申し込みました。

関内ホールは、旧宝塚劇場であり、その歴史を何らかの形で生かしていきたいと思いました。

### ●企画・実施において苦労した点

全体研修会での講師との打ち合わせが難しかったことです。

ホールのある馬車道商店街との連携も模索しており、馬車道商店街とは、毎年、5月、11月の街のイベントに合わせて、ホールも鑑賞事業等実施するなど、協働事業を行っています。しかし、それだけではない何か、を求められていましたが、それがいったい何なのか全く分かりませんでした。打ち合わせを重ねて、街歩きを実施することとなったのですが、馬車道＝横浜開港の歴史があり、歴史的背景を感じながら街を歩くことが当たり前と思っていたので、地面のマンホールなど普段気に留めないようなものに焦点を当てる街歩きってどうなんだろうと思っていましたが、実際に体験することで、初めて理解することができました。(2回目派遣で実施した「親子でめぐる馬車道街歩き」では、あまり質問もなかったので、子供のほうが柔軟に受け入れられるのかもしれない。)

それと、日程調整に苦労しました。横浜市から教育プログラム(小中学校の出前授業)を3校受託していて、先にそのスケジュールを決めてしまったため、ホールの空き状況と講師他全員のスケジュールの調整が難しく、開催日が限定されてしまい、2月の寒い時期に親子を対象とした街歩きのワークショップの実施となりました。また、準備などが結構タイトになってしまいました。

### ●プログラムを実施した成果

関内ホールのある馬車道商店街は、今年(2023年)1月に第11回かながわ商店街大賞を受賞し、1月21日にはアド街ック天国で馬車道が放送されました。そのようなタイミングのいい時に、ホールと街に理解を深められるワークショップを実施できたことをありがたく思います。

当初、長崎から演劇人が一体何しに来るのか?とっていた商店街の事務局の方が、参加者が撮影した写真を見て、こんな場所があったなんて知らなかったと新たな発見をしたり、また、打ち合わせの時に、私たちや街の人が当たり前と思っていた休憩用のベンチ、赤レンガ舗装の歩道、緑が多いフラワープランターについて、福田さんから街に入った瞬間に景色が変わると言われて、改めて、そう言えばこの煉瓦はイギリスから輸入したことや、ホールの設計のコンセプトなど、忘れていた昔に思いをはせることができました。こうして撮影した写真100選は、ホール・エントランスのデジタルサイネージで常時流しています。

この事業では、地域創造の支援があるため、収支について神経質になることなく、少人数に絞った贅沢なワークショップができたと思います。特に、子供たちは、ほぼ3年近く新型コロナウイルス感染症のリスクのため、学校行事に参加することが制限されていましたし、そのような中で、親子で一緒にゆったりと楽しんで過ごす時間を持つことができ、帰路や家に帰ってから謎解きの続きや作文発表などを通じて、親子の会話が増えたのではないかと思います。

親子で楽しめるものを探して申し込んだ人が多く、特に芸術にこだわることなく、普段、ホールに訪れない層に参加していただけました。安全に配慮した形で自由に機材を触ることができ、また、普段接しない舞台の裏方スタッフと話をすることで、よりホール、舞台を身近に関心を持ってもらうことができたのではないかと思います。このことは、子供たちが大人になったとき、劇場や舞台への関心を持ってもらう一助となり、将来のホールのファンとして応援隊になってくれるのではないかと思います。舞台スタッフからは、ホール利用者への利用してもらうための発信ではなく、子供たちにかみ砕いてわかりやすく説明するかということが難しかったが、感動と仕事に誇りを感じたとのことでした。

### ●今後の展望

約380万人の人口を有する横浜市という観光がメインの大都市の都心部に位置するホールとして、地域(郊外部含む)とどう向きあっていくのか、という課題解決のヒントとなったワークショップでした。日々の日常の一片を切り取ったら、実は馬車道の歴史に紐づいていて、こうしなくてはいけない、という考え方の癖から離れて考えてみるのもいい、という気付きを得ました。

最初の研修の時に、福田さんがおっしゃった「オンリーワンの指定管理者」になるために、日々のルーティン、日々の雑事に紛れて、現状維持に陥ってはいけない、5年後、10年後を見据えて、自分たちにしかできない事業を組んでいくことが大切だ、という一言が心に残っています。そのような気付きを大切にして、特に子供向けに、これからも事業を実施していきたいと考えています。



### 都会という地域が抱える課題と次への原動力

福田修志

横浜市という日本でも有数の都会にある関内ホールは、馬車道という歴史ある通りに面した劇場であり、横浜市の中でも風情や歴史性を感じる地域に建っていました。近隣を歩けば、開国期に建てられた幾つもの建物を楽しむことが出来たり、少し歩けば伊勢佐木町、赤レンガ倉庫、中華街に横浜スタジアム、と数え切れないほどの観光地や名所がある中で、この劇場が果たす役割や地域課題とは何かを、担当者と一緒に探っていくことになりました。

当初、担当者が考えていたのは「商店街と繋がりを持つ」「子供たちに向けた取り組み」などの企画で、しっかりとこの地域の課題に即した物でした。ですが、商店街側にリサーチをした結果、先方は今回の事業で実施できるようなことを希望していないことが分かり「商店街との連携」は今回見送る形となりました。振り出しに戻されてしまったので、その後何度も担当者と意見交換を重ね、企画することが出来たのが今回の企画である『まち歩き』と『ホール探検』です。「普段劇場に足を運ぶ機会がない人との繋がりを作る」という事を大きな目標とし、その対象の中には大人たちはもちろんのこと、子供たちも含まれるということで、なんとか当初の希望を生かした企画へと辿り着きました。

『まち歩き』を柱にした二つの企画「馬車道街歩きツアー」と「親子でめぐる馬車道街歩き」は、どちらもこの街に相応しい、街を丸ごと楽しめる企画になりました。楽しみ方はそれぞれ違って、写真をプロジェクターで映してタイトルを付けて遊んだり、写真から感じる謎を考えて遊んだり、子供から大人まで幅広い年代の人々が一緒になって街を楽しんでいたのが印象に残っています。また後日、参加者が撮影した写真を商店街の方に見せたところ、商店街の人にとっても見たことがない馬車道が見られたということで、その点についても当初の「商店街と繋がりを持つもの」という目的は果たせたのかと思います。

『ホール探検』を柱にした「親子でホール探検」という企画では、初めて見る舞台裏や劇場の裏話に想像力を膨らませ、大人も子供も一緒になって、この場所にあるかもしれない物語を想像して楽しみました。なかでも一組目に参加した家族のお父さんの感想が印象的で「自分は劇場という場所に興味がなかったが、今回参加することで、劇場でお芝居を観てみようと思った。」という、これ以上はない感想でした。

地域や劇場の課題を考えて、企画し、実施する。社会貢献や地域還元などのなかなか目に見えにくい効果を目指して取り組んでいる状況の中で「劇場の観客が一人増えた」という事象は、シンプルでとても分かりやすい実績に違いありません。これだけの時間をかけて、目に見えたのは「たった一人」なのかもしれませんが、これを地道に続けることが大切だと思います。「この世に生まれて、劇場に行ったことがないまま人生を終える」という人は沢山います。そのために、あの手この手を考え尽くすこと。接点がない人に、どうアプローチをして、どうやって気にかけてあげるのか？今回は100点満点の感想をいただき「報われた」と感じられましたが、毎回そうとは限りません。ですが、この小さな幸せが間違いなく、次の企画への力になると僕は信じています。

## 静岡県島田市 実施データ

実施団体	島田市
実施ホール	島田市民総合施設プラザおおるり
担当者	三宅真人（観光文化部文化振興課）
実施期間	下見派遣 令和4年5月8日（日）～5月9日（月） 1回目派遣 令和4年9月1日（木）～9月4日（日） 2回目派遣 令和4年9月30日（金）～10月3日（月）
アーティスト等	アーティスト：有門正太郎 アシスタント：門司智美、青野大輔
<p>■下見派遣内容</p> <p>5月8日（日）地域資源の視察、打合せ、中心市街地下見 5月9日（月）プログラムの打合せ</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>9月2日（金）13:30～16:00 演出家による発想力・コミュニケーション能力向上ワークショップ 9月3日（土）10:00～12:30 空想しまだ 演出家による発想力を育むワークショップ（小学生～中学生） 14:00～16:30 空想しまだ 演出家による発想力を育むワークショップ（高校生以上）</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>10月1日（土）13:00～16:30 “えんげき”の魅力を知らう！体験ワークショップ 10月2日（日）13:00～16:30 空想しまだまちあるき～新たな地域の魅力を発見しよう～</p>	

## スケジュール

派遣	下見		1回目				2回目			
月日	5/8（日）	5/9（月）	9/1（木）	9/2（金）	9/3（土）	9/4（日）	9/30（金）	10/1（土）	10/2（日）	10/3（月）
9:00					受付					
10:00	移動	打合せ	移動	大井神社 視察	空想しまだ ～演出家による 発想力を育むWS					フィード バック
11:00			昼食							
12:00		昼食		集合・受付	昼食		移動	受付・準備	受付・準備	移動
13:00	地域資源 視察	打合せ	島田市博物館 視察	発想力・コ ミュニケー ション力向 上WS	受付	島田大祭関係 者聞き取り		“えんげき” の魅力を知 らう！ 体験WS	空想しまだ まちあるき ～新たな地 域の魅力を 発見しよう	
14:00	関係者 顔合わせ									
15:00	地域資源 視察	移動	島田大祭関係 者聞き取り	振り返り 打合せ	振り返り・ 次回打合せ		まちあるき 下見			
16:00						会場下見			会場確認	振り返り 明日の確認
17:00	打合せ									
18:00										
19:00										
20:00										
21:00										

## プログラム詳細

### 演出家による発想力・コミュニケーション能力向上ワークショップ

9月2日（金）13:30～16:00

会場：島田市民総合施設プラザおおるり 第1多目的室

参加者：17名

文化施設職員、自治体職員を対象としたインリーチを実施しました。  
ニックネームをつけて互いに呼び合ったり、写真からイメージを膨らませて絵を描くワークショップなど小学校などで実施する出前事業のメニューを体験しました。発想力、コミュニケーション能力の向上に繋がるとともに、「答えがないことをどれだけ楽しめるか」といったアクティブラーニングの思考を認識する機会となりました。

参加者からは「自分のなかの凝り固まったイメージがあることに気づかされた。」「人によって見え方、感じ方が違うため1人1人の意見を聞くことが大事だと感じた」といった感想がありました。当日は、島田市内の文化施設のみならず近隣自治体からも多数の参加があったことで、市域を超えた会館職員同士の交流や情報共有の機会となりました。



### 空想しただ～演出家による発想力を育むワークショップ～（小学生～中学生）

9月3日（土）10:00～12:30

会場：島田市民総合施設プラザおおるり 第1多目的室

参加者：12名

小学生～中学生を対象に発想力を育むワークショップを行いました。市内外から小学1年生から中学3年生までの12名が参加しました。テーマとして、題名に掲げた発想力の向上に加え、市内で3年に1度開催される「島田大祭」について、若年層の興味・関心を高めることを目的としました。

プログラムでは初めに、仲良くなるためのコミュニケーションワークとして色鬼ごっこや写真を使ったワークなどを行いました。遊びを通して最初は緊張していた子どもたちも自然に打ち解けることができました。その後、2グループに分かれて「島田のおまつり」をテーマに、参加したくなるお祭りをみんなで考えて表現しました。「出店が食べ放題のお祭り」といった意見があったほか、実際に演じる形でお祭りを表現するグループもありました。

参加した子どもたちからは「楽しかった」、「チームの人とたくさん意見を出し合って疲れたけれど楽しいお祭りを作れて嬉しかった」といった感想がありました。



## 空想しまだ～演出家による発想力を育むワークショップ～（高校生～社会人）

9月3日（土）14:00～16:30

会場：島田市民総合施設プラザおおるり 第1多目的室

参加者：9名

高校生～社会人を対象に発想力・コミュニケーション能力を育むワークショップを実施しました。職員を含めた20代～70代までの幅広い年齢層が参加しました。

前半では自己紹介を行った後、共通点探しなどのアイスブレイクを行いました。最後に3人ずつのグループに分かれて島田大祭をテーマに、どんなお祭りが行われたら面白いかをみんなで空想しました。「蓬萊橋で祭りの行列を行ってみる」、「当日だけ長老と青年を入れ替えてみる」といったユニークなアイデアが次々に出されました。

参加者からは「打ち解けやすい雰囲気楽しかった」「話しているんだという雰囲気が心地よかった」といった感想がありました。また、島田大祭への興味関心も高まったようでした。



## "えんげき"の魅力を知ろう！体験ワークショップ

10月1日（土）13:00～16:30

会場：島田市民総合施設プラザおおるり 第1練習室

参加者：15名

「初心者から経験者まで気軽に参加できるワークショップ」として演劇体験教室を行いました。公募により、当日は高校の演劇部や市民演劇団体のメンバー、1回目派遣参加者などの参加がありました。年齢層も中学3年生から60代までと大変幅広いものになりました。2部制とし1部を講座、2部を体験として、1部のみの参加でもよいとしましたが、全員が1部2部両方に参加しました。

プログラム前半では、身体を動かすコミュニケーションワークを行いました。後半からはグループに分かれて台本を読みながら、実際の演劇仕立てで練習・発表を行いました。グループによって登場人物の関係の捉え方が異なり、同じ台本でも様々な劇が出来上がることが体験されました。一連のワークを通して市内の演劇人の交流や新たな演劇人材発掘の機会となりました。

参加者からは「初対面の人間同士が古くからの知り合いのようになっていく不思議な体験だった」、「演劇の楽しさ、力を再認識した」といった感想がありました。



---

空想しまだまちあるき～新たな地域の魅力を発見しよう～

10月2日（日）13:00～16:30

会場：島田市民総合施設プラザおおるり 第3多目的室

参加者：18名

小学3年生以上を対象に街歩きワークショップを行いました。小学生から50代まで市内外から幅広い年齢層の参加がありました。

プログラムでは、初めに室内で○や△の形を探す、写真を見て空想を広げる、など発想力を豊かにするワークを行いました。その後、2グループに分かれて1時間の街歩きに出かけました。街歩きのなかで見つけたスポットは1台のカメラで共有して撮影しました。会館に戻った後、撮影した写真をひとり1枚選んで印刷し、絵を描きました。最後に参加者ひとりひとりが自分だけのオリジナルの風景を作り出し全体で共有しました。同じ写真であっても人によって様々な作品に仕上がりと個性を楽しむ時間となりました。

参加者のうち子どもからは「日常の見え方が変わって楽しかった」「想像するのが楽しくてもっとやってみたかった」、大人からは「仕事、子育てにも役立てられそうなアイデアが浮かんだ」「発想の転換が大事だと感じた」といった感想がありました。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

島田市では市内高等学校の演劇部の廃部や演劇団体の活動の衰退といった状況がありました。こうした状況に対し従来から演劇の定着を図る取組が行われていなかったため、事業を通じて演劇文化の振興とそれによる人々のつながりの創出、文化創造の機運醸成を目的としていました。

当初の段階では2回の派遣全体を使って、高校生などを対象にみんなでひとつの作品を創作する連続講座の実施を企図していました。しかし、申請時から人事異動等があり課題設定などについて疑問が生じたため一部事業内容を見直したうえで実施することとなりました。

### ●企画・実施において苦労した点

課題設定や参加動機等を実感できないまま事業を進めたため、様々な苦労に直面しました。当初の参加動機を現実的な課題として認識することができず、かといって何を対象に事業を展開すべきか目的が見つからず、下見派遣では「何をやるか」でなかなか議論が進みませんでした。決定後も事業全体の目的が不明瞭であったため、課内や会館職員に対して不十分な説明に終始したように感じています。

プログラム内容の決定が直前になったため事業の広報に時間を十分に費やすことができませんでした。そのため参加者集めには大変苦労しました。ただ、どのような人が参加すべきものか、を改めて考えながら個別にアプローチすることができたため、参加者の満足度は高いものになったと感じています。

また、前年度の段階で事業にかかる予算をまったく確保していなかったため、チラシの作成、広報の実施、必要備品の用意、会場・人工の確保に関して苦労する面が多かったです。派遣アーティストや地域創造、会館に多方面から御協力をいただく形での実施となりました。適切な予算確保の重要性を痛感しました。

### ●プログラムを実施した成果

当初計画を変更し、単発のワークショップを4回実施しましたが、総じて市内外の様々な階層の人々が、表現活動に親しむ機会となりました。演劇的手法を用いることで参加者の間に彩りある交流が生まれたことは大きな成果だったと感じています。

特に会館職員向けワークショップでは、近隣自治体からも参加があったことで、地域を超えた公立文化施設職員の交流の機会となりました。各地域で文化活動を支える人々の横のつながり構築が図れたことは大変意義深かったと感じています。これを契機として情報共有の活発化や連携体制の構築が深化されていくことが期待されます。また、演劇体験ワークショップでは、地域の潜在的な演劇人材と高校演劇部、市内演劇団体が結びつく機会となり、今後の地域での演劇文化の発展継承に可能性を見出すことができました。市民性として表現活動に対する消極的な姿勢があると考えていましたが、必ずしもそうではないのだと気づくことができました。

また、「島田大祭」を題材としたプログラムを通して、演劇的手法の活用事例を実感することができました。課題の当事者たちが集まって楽しくコミュニケーションをとることが、課題解決に向けた土壌作りに繋がるのだと感じました。

### ●今後の展望

演劇的手法を用いることで様々な人材が交流する機会となり、その効果が実感されました。今後、それぞれのプログラムで生まれた繋がりを継続・拡大していくことが重要であると感じています。そのため、次年度以降も事業を継続すべく計画を進めていきたいと思えます。

特に会館職員向けワークショップ、演劇体験ワークショップは今後の展望を考えるうえでヒントになりました。今回の会館職員向けワークショップでは、公立文化施設の職員のみが参加しましたが、地域のアート団体や企業、文化協会なども巻き込むことで、より具体的な地域課題解決に向けた土壌作りに繋がるのではないかと感じています。また、演劇人材ワークショップは、今回十分に告知ができなかったにも関わらず多く参加者があったことから、より幅広い期間をとって告知を行うことでさらに多くの潜在的な演劇人材（自ら表現したい人）を発掘することができると思えます。演劇活動やそれを媒介とした人々のコミュニケーションが拡大していくことで、自ら主体的に表現や活動をする市民の育成に繋がることを期待できます。

効果的な取組みを継続していけるように、テーマや実施方法をよく考える必要があると感じています。

# アーティストレポート

---

## 「知ることから始まる」

有門正太郎

静岡県島田市は人口10万人弱の笑顔あふれる安心のまち。

富士山静岡空港も島田市にあり、降り立つ前から茶畑に囲まれ、世界一長い木造歩道橋の蓬莱橋が存在感を出していました。

昨年度実施の予定が新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期しての開催となり、担当者も異動で代わり、事業の目的を丁寧に説明するところから始まりました。

### ・全体プログラム

演劇のプログラムを行う事に慣れていない中で、できるだけ沢山の方が参加できるプログラムを心がけ、インリーチ、街歩きや台本を使うワーク、子ども向けと多岐に渡るプログラム構成になっていきました。演劇のプログラムを行う意味合いや島田市の抱える課題などを改めて話すうちに、島田大祭（帯祭り）の話が出てきました。

そこから生まれた子どもたちを対象にした「理想のお祭りを作ろう」ワークショップでは、大人では出てこないような発想豊かなお祭りが様々生まれ、担当者をはじめこのリージョナルシアター事業の本質に気づいてくれたのではないかと感じました。

### ・「やった事ない」から「やってみたい」へ

公共ホールからの応募とは異なり今回は島田市からの応募ということもあり、事業を行ったプラザおおりの館長などにもご協力いただきながら進めることになりました。

市の職員が演劇を使ったプログラムを考える事に、担当者をはじめ随分苦慮している印象でした。今回の実施でようやくこの事業の目的と今後の方向性が見えてきたように感じました。印象的だったのは担当課長自ら「参加してみないとわからない」と言われ、ほぼどの事業にも能動的に参加されたことが嬉しく、そして「これは続けるべき事業です」と最後に言われたことが何より実施した意味があるように感じました。

しかし、ここが大切な部分で、毎回集客に苦しむ部分でもあるのです。演劇を使ったワークショップですと言われてもちっともピンと来ない。しかし参加してみると「面白かったまたやりたい」となる。この部分は広報の工夫と実際に参加した仲間をより多く作る事、そして継続することが何よりも近道な気がします。

今回、プログラムには入れていないのですが島田大祭の関係者からヒアリングする機会を数度設けました。祭りに対する気持ちや現状の課題、そして大祭を通して島田の魅力を感じる事が出来たことが印象的でした。

### ・まとめ

今回多岐に渡る事業を通して、市民と様々な関係性が生まれた事が今後の事業に大きな意味を持つと感じています。市外からの参加者も多く、偶然昨年リージョナルシアター事業で訪れた掛川市とはお隣の関係性のこともあり、連携事業も視野に今後の展開を考えているようです。住民には市の境はさほど関係なく魅力的な企画があれば参加したいという言葉も多く聞かれました。行政の垣根を越えた越境事業のような展開は、今後他の地域の方の見本となるように感じています。摘んでも摘んでも生えてくる茶葉のようにしぶとくそして遅く今後の事業を行ってほしいです。

## あすとホール（大阪府泉大津市） 実施データ

実施団体	泉大津市
実施ホール	あすとホール
担当者	辻西さやか（泉大津市）・泉本尊子（あすとホール）
実施期間	下見派遣 令和4年5月19日（木）～5月20日（金） 1回目派遣 令和4年6月16日（木）～6月18日（土） 2回目派遣 令和4年7月8日（金）～7月10日（日）
アーティスト等	アーティスト:ごまのはえ アシスタント:高原綾子、池川タカキヨ アドバイザー:岩崎正裕（2回目派遣）
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>5月19日（木）会場下見、打ち合わせ 小津中学校訪問 5月20日（金）浜小学校下見 市内散策 写真提供者面談、打ち合わせ</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>6月17日（金） 8:50～10:20 泉大津市立浜小学校（6年2組）アウトリーチ① 10:40～12:10 泉大津市立浜小学校（6年1組）アウトリーチ② 16:00～18:00 脚本ワークショップ</p> <p>6月18日（土）13:00～16:00 表現ワークショップ「声＋音」基礎編</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>7月9日（土） 13:00～16:00 表現ワークショップ「声＋音」応用編 7月10日（日）10:00～17:00 成果発表会、フィードバック</p>	

## スケジュール

派遣	下見		1回目			2回目		
月日	5/19（木）	5/20（金）	6/16（木）	6/17（金）	6/18（土）	7/8（金）	7/9（土）	7/10（日）
9:00		打合せ		浜小学校 アウトリーチ①				
10:00		市内視察			打合せ		準備	成果発表会 リハ
11:00	移動	浜小学校 打合せ		浜小学校 アウトリーチ②	移動			
12:00								
13:00	集合 打合せ	写真選定 打合せ	移動	打合せ	表現 WS 基礎編		表現 WS 応用編	成果発表会
14:00	写真選定 写真提供者面談					移動		
15:00	移動	移動	打合せ					
16:00	小津中学校 打合せ			脚本 WS	振り返り		打合せ 翌日準備	フィード バック
17:00					移動			移動
18:00								
19:00								
20:00								
21:00								



## プログラム詳細

泉大津市立浜小学校アウトリーチ

6月17日(金) ① 8:50～10:20 ② 10:40～12:10

会場：泉大津市立浜小学校

参加者：6年生 ① 25名(2組) ② 25名(1組)

小学校6年生を対象に、様々な民族楽器などを使った「表現+音」のワークショップを行った。初めに、講師が持参した楽器の説明を行い、その後、デモンストレーションとして、その楽器を使って何の音を表現しているか児童に当ててもらおうクイズを行った。その後、児童たちはチームに分かれ、それぞれ配られた「お題」に合わせて自分たちの音作りに挑戦した。お題のカードは「踏み切り」「大雨」「一目ぼれ」「ウキウキ」。最初は戸惑っていた子ども達も、自由に楽器に触れて音を出すことがとても楽しそうで、グループで話し合いながらお題の音を作った。特に「一目ぼれ」では、心臓の音など、想像力豊かな表現が見られた。

最後に、講師から配布された台本をアシスタントの二人が演じ、児童はその動きに合わせて全員で音を付けた。物語が音で彩られる感動に歓声が上がる様子が印象的だった。



### 脚本ワークショップ

6月17日(金) 16:00～18:00

会場：泉大津市立小津中学校

参加者：11名

泉大津市の昔の写真から着想を得て脚本を書くワークショップ。今回は、地域の方から主に昭和の子ども会での写真を提供して頂いた。

講師より、脚本とは何か？という説明の後、参加者が時間差のある2枚の写真を見て、季節や場所、何をしているかななどを観察し、感じたことを発表。次に「しめ縄」という過去のWSで提出された作品の解説を聞き、「季節」「時間帯」「何をしている」「人物」「関係性」「気持ち」「なぜこうなった、これからどうなる」等を写真から観察する方法や想像して物語を考える方法など、技法を含めて脚本の書き方を学んだ。その後、30枚の写真から、それぞれ好きな写真を数点選んだ。参加者には、今日の講師の説明を参考に、写真を題材とする脚本を制作していただいた。後日の締め切りまでに参加者11名中7名から、9作の提出があった。



### 表現ワークショップ「声+音」【基礎編】

6月18日(土) 13:00～16:00

会場：泉大津市立小津中学校

参加者：8名

小学生から70代までの一般公募による参加者が様々な民族楽器などを使った「声+音」の表現ワークショップを行った。初めに、講師が持参した楽器の説明を行った後、楽器を使って「海」の音をデモンストレーションした。その後、4つのグループに分かれ、それぞれのお題に合わせて協力しながら音作りを行った。作成した音を発表し、他の参加者が正解を考えた後、提供された台本に沿って「音」を合わせた。幅広い年代の市民が世代を超えて交流し、お互い刺激を受けていた。また、2回目派遣時に、脚本WSで作成された脚本に「音」を付けたリーディング劇を発表するため、参加者はどのような「音」の表現があるのか考えながら熱心に取り組んでいた。



## 表現ワークショップ「声+音」【応用編】

7月9日（土）13:00～16:00

会場：泉大津市南公民館

参加者：11名

脚本ワークショップ参加者から提出された9作の中から講師が選んだ3作品をリーディング劇として、成果発表会で発表する。その練習を兼ねたワークショップを開催した。新型コロナウイルス感染拡大により、当初予定していたよりも少ない6名の参加となった。上演するのは『苺』『おかしな話』『地蔵盆』の3作品。それぞれに配役を決め、読み合わせの練習を行った。講師のアドバイスを受けながら「台詞」の表現について熱心に学んでいるようだった。配役には「音」担当もあり、シーンによって「効果音」を考え、脚本に演出を加えた。

役柄には、年齢や性別などが参加者自身と異なるものもあり、少し戸惑っているようだったが、想像力を膨らませながら工夫して表現することを楽しんでいる様子だった。翌日の発表会の全体の流れなども打ち合わせ、公演の最後に皆で歌う『手のひらに太陽を』の練習も行った。



## 成果発表会

6月10日（日）10:00～16:00

会場：あすとホール

参加者：8名

当初、3作品を上演する予定だったが、「音」無しのリーディング劇2作品を新たに加えるなど、合計6作品を上演することになった。午前中のリハーサルは、作品ごとの立ち位置や流れなどの練習を時間いっぱいまで行った。

午後の本番は、一般のお客様24名の前で成果発表を行った。オープニングトークとして、講師と地域創造・ホールスタッフで本イベントの趣旨を説明。その後、5作品を上演し、最後は全員で「手のひらに太陽に」を生演奏で歌った。上演後には、脚本の執筆者、出演者に対する質疑応答等も行った。

練習から上演まで短い時間だったが、とても完成度の高い発表会となった。観覧に来られた地域の方々も、古い泉大津の写真を懐かしみながら、特に子ども達の表現力の豊かさに感動していた。ミュージカルを習っている児童がいつもより声が出たと自信を持つ姿や70代の男性が「もっと早く出会いたかった！」と楽しさを表現してくれるなど、参加者の満足度の高さもうかがえた。幅広い世代の交流が自然と行われ、コミュニケーションの幅を広げる素晴らしい機会となった。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

経験豊かなアーティストのワークショップを行うことでまちの文化的魅力を培うと共に、ホールの企画・運営能力を向上させることを目的に参加を希望した。特に、ホールとして経験のない「演劇」事業のノウハウを得て、市民が今まで触れたことのないジャンルに触れる機会の提供につなげたいという狙いがあった。

事業の対象としては、「自分を表現するのが苦手」という地域の児童を選んだ。演劇を通して、個人の自己表現を経験してもらい、固定概念から解放することで、殻を破る体験の場をつくりたいと考えていた。

事業の方向性としては、「まち」を個人的な物語の連続する場所と解釈し、当市で育ってきた参加者の「まちの記憶」をテーマに表現してもらう案を出していた。自分自身の「今」を改めて表現することで当たり前の日常の中にある土地への思いや自己肯定感を育てられればという思いがあったからだ。

また、地域の小学校、支援学級、福祉施設などへのアウトリーチを通して、地域子ども達との繋がりをより深め、市民の地域への愛着や地域の文化的魅力の向上に繋げたいと考えていた。

### ●企画・実施において苦労した点

最も苦労したのは、ターゲットの選定と企画の提案方法だ。当初、漠然と地域の若い世代に「演劇」を体験してもらいたいと考えていたが、本市には演劇の活動をしている団体もなく、地盤となりそうな対象が思い当たらなかった。そのため、新たに地域との連携を軸として、公立学校をターゲットに定めた。

楽器を使った表現ワークショップについては、地域の中学校を会場に決め、学校のスケジュールに合わせて、タイトかつホールの事業とも重なる日程ではあったが、開催日時を設定した。中学生に参加してもらいたいという思いがあったが、学校のニーズと事業趣旨のすり合わせが難しく、中学生の応募につながらなかった。結果的には、小学生から一般までの幅広い年齢の公募者によって実施したが、公立学校との連携の難しさを痛感したワークショップだった。

アウトリーチに関しても、楽器を使う性質上、当初対象としたかった支援学級での開催が難しく、通常級でも人数の関係で実施できない状況があった。運よく、クラス数の少ない小学校が見つかり、学校側も快く受け入れていただけのため、無事開催することができた。普段の授業には出席が難しい生徒もこのワークショップのために登校してくれるなど、うれしい成果が見られた。

### ●プログラムを実施した成果

上記のような苦労がありつつも、参加者が自身の住むまちの昔の写真から着想を得て脚本を書くワークショップによって、まちの歴史や魅力に触れる機会は素晴らしいものだった。通常はワークに使う昔の写真の収集に苦労するとのことだったが、本ホールでは瞬間に多くの写真を集めることができ、地域の方とのつながりの強さを感じる機会となった。参加者がまちへの愛着を感じ、想像力を膨らませる唯一無二の機会になり、ホールとしても、泉大津市としても大きい成果が感じられた。

また、「声＋音 表現ワークショップ」については、講師のごまのはえさんに持参していただいた楽器に対し、子どもも大人も大いに興味を示し、「音」による「表現」という、今まで特別に感じていなかったものに感性を研ぎ澄まされる、新たな表現に繋がったのではないと思う。アウトリーチに関しても、小学生の「音」「楽器」「表現」というものに関する興味や好奇心を大いに引き出し、創造力を引き出すことができた。

世代間の交流がとても良い形で行われたことも大きな成果だったと考える。小学生と70代が同じものを創り出していく過程で、お互いに理解し合い、刺激を受けていた様子がとても印象的だった。地域コミュニティがつながる場として、当ホールの存在意義を再認識できたことが更なる成果と考える。

### ●今後の展望

今後、子どもだけでなく、大人も含めて多様な「表現」に興味を持ってもらうきっかけを作っていきたい。演劇への抵抗感を無くし、表現力やコミュニケーション力に繋げるツールとして、気軽に「演劇」に関わる環境作りを目指したい。そのために、まずは今回の脚本ワークショップ参加者の作品を冊子として制作し、より多くの市民の目に触れてもらう機会を作ろうと考えている。

また、将来的には、地域の文化を継承する創作劇の上演につなげたい。特に、あすとホールが現在取り組んでいる、地域の無形民俗文化財である「盆踊り / 大津おどり」の継承を目的として、地域に伝わる物語の脚本を作成し市民に披露できればと考えている。

# アーティストレポート

---

## 地元を楽しむ

ごまのはえ

泉大津市は、堺より南、岸和田より北に位置する。海に面し、メイン会場であるあすとホールの最寄り駅南海松ノ浜駅は、むかし海水浴客で賑わったところだ。現在は海沿いの街であることを、少しも感じさせないが、何度か訪れるうちに、風景のなかに海と一緒に暮らしてきた頃の名残を見つけることができた。少し丁寧な目で風景を見つめると、歴史や地域文化があちこちに見えてくる。泉大津はそんな街だった。

今回の事業は、地域の写真から着想を得て参加者が短編戯曲を創作し、それを台本にしてリーディング上演会を開催するというものだ。写真はあすとホールのすぐそばにお住まいの方から拝借した。「運動会」や「祭り」や「子供の旅行」や「地藏盆」などの写真が多く、地域活動に積極的に関わって来られたことがよくわかる。

脚本ワークショップは中学生からご高齢の方まで幅広く参加してくれた。写真に切り取られた当時を知る方々は、往時を懐かしく語り、思い出すように物語を紡いでおられた。また当時を知らない中学生は独自の感性で写真から物語を作り出していた。最終的には8作完成した。ただ年配の方の作品に数カ所、今となっては世間的にNGな言葉や表現があった。こういった事は泉大津市が初めてでなく、他の地域でもあることだ。しかし対処の仕方は劇場（主催者）によって大きく異なる。今回は主催者が決定権を持ちつつ、私や地域創造側の意見を取り入れた上で、作者との話し合いに臨むことができた。結果的に、語句の変更や、発表を見合わせるなどの対処をしたが、血の通った意思疎通が出来たように思う。

リーディング上演会には8名の方が参加し、6作品を発表することが出来た。「家族」を題材にした作品が多く、お稽古をしていると自然に今と昔で違うところ、変わらないところに話が及ぶ。参加者には年配の方、小学生、中学生がおり、それぞれが自分の感想を述べていた。特に年配の方々には、小学生、中学生の感性を楽しむ余裕があり、子供達も安心して創作に没頭することが出来たと思う。ただ反省点もあり、一つは前日のワークショップ会場がリーディング上演会場とは別であったこと。これにより上演会当日の時間の使い方が、綱渡り的になってしまった。このヒヤヒヤ感は参加者にも伝わっていたと思う。もう一つは上演会を見た写真提供者が、怒りだしたこと。怒りの原因は、写真が投影される時間が短かったことと、ご本人の耳が遠くセリフが聞き取れなかったこと。後者はまったくのご本人の都合なので、改善点を見つけることは出来ないが、前者に関しては、事前の説明（お借りした写真をどのように使うか）をより丁寧にしておくべきだったと反省している。もちろん「写真から着想を得て、短編戯曲を創作する」という話は今回もしているが、そう言われただけでは、完成形（上演会）を思い浮かべることは出来ないのだろう。肝に銘じた。

他にも小学校で5年生2クラスのアウトリーチを行った。様々な楽器に触れ、音を手がかりに想像力で遊ぶ内容だ。小さな学校で、一年生から同じ顔ぶれのなかで学校生活を過ごして来たようだが、このワークショップでは、仲間の普段とは違う側面が見られたようで、2クラスとも大いに盛り上がった。コロナ禍で様々な学校行事が中止や縮小に追い込まれていることも、盛り上がった遠因かもしれない。

今回の事業を通じて印象に残っているのは、泉大津の皆さんの地元を楽しもうという気持ちだ。そして、その人たちのハブとしてあすとホールが稼働している。これまでの挑戦と失敗の積み重ねによる成果だろう。小さい自治体の、小さい劇場ゆえに、より勤める人の人柄が、そのまま劇場の雰囲気をつくり出す。温かい、くつろぎのあるホールだと思った。今ある人の輪を、少しずつ広げて行く、そんな活動を今後も期待したい。



## あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）（徳島県） 実施データ

実施団体	公益財団法人徳島県文化振興財団
実施ホール	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）
担当者	宇野榮展
実施期間	下見派遣 令和4年5月23日（月）～5月24日（火） 1回目派遣 令和4年8月22日（月）～8月25日（木） 2回目派遣 令和4年12月19日（月）～12月22日（木）
アーティスト等	アーティスト：有門正太郎 アシスタント：門司智美、丸山文弥 アドバイザー：内藤裕敬（2回目派遣）
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>5月23日（月）あわぎんホールの会場下見、内容打合せ、市内視察など 5月24日（火）障がい者交流プラザ訪問、プラザ職員を交えた内容打合せなど</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>8月23日（火）19:00～21:00 演劇関係者対象ワークショップ 8月24日（水）10:00～12:00 福祉関係者や行政職員対象ワークショップ</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>12月20日（火）10:00～12:00 演劇と福祉が一緒にできること【出会いと学びプログラム】① 12月20日（火）19:00～21:00 台本へのアプローチ【演劇ワークショップ】 12月21日（水）14:00～16:00 演劇と福祉が一緒にできること【出会いと学びプログラム】② 12月21日（水）19:00～21:00 ファシリテーター養成講座</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
月日	5/23（月）	5/24（火）	8/22（月）	8/23（火）	8/24（水）	8/25（木）	12/19（月）	12/20（火）	12/21（水）	12/22（木）
9:00					準備			準備		
10:00		ホール入り 移動		ホール入り 内容打合せ	福祉関係者等 WS			演劇と福祉 が一緒にで きること①		フィード バック 次年度企画 打合せ
11:00	徳島入り （空港着）	障がい者交流 プラザ会場下見			移動					
12:00	ホール着 昼食	昼食		昼食	昼食		徳島入り	昼食		
13:00		企画打合せ	移動		振り返り 次回打合せ		昼食		準備	
14:00	打合せ等 会場下見			会場下見 内容打合せ			打合せ等		演劇と福祉 が一緒にで きること②	
15:00		福祉施設 見学								
16:00	市内視察									
17:00									移動	
18:00		移動		準備				準備	準備	
19:00	交流会									
20:00				演劇関係者 WS				台本へのア プローチ	ファシリ テーター養 成講座	
21:00										

## プログラム詳細

### 演劇関係者対象ワークショップ

8月23日(火) 19:00～21:00

会場：あわぎんホール 5階 会議室6

参加者：18名

- ①自己紹介（輪になって順番に講師と話す）
- ②【出されたテーマに沿って整列する（起床時間、誕生日等）】  
参加者同士で相談し合って並ぶ内に不思議な連帯感が生まれてきて、だんだんと親しくなっていた。
- ③【4つのグループに分かれてプレゼンテーション】  
講師が「好きな季節」などのテーマを決めて、4つのグループに分かれる。その後、自分のグループの選んだものの魅力についてプレゼンテーションする。この頃になると、参加者同士がかなり盛り上がり自由な意見がたくさんでていた。



### 福祉関係者や行政職員対象のワークショップ

8月24日(水) 10:00～12:00

会場：あわぎんホール 5階 会議室6

参加者：15名

- ①自己紹介
- ②身の回りにある色探し（講師が言った色を近くから探す）  
前半はコミュニケーションワークを実施。①②を通して参加者同士が打ち解ける。
- ③だまし絵を見てみる
- ④近くのとある場所を拡大した4種類ほどの写真を1枚選び好きな絵を描き込む。（ストーリーを考えながら）
- ⑤発表  
後半は、発想を出し合うワークショップ。③～⑤を通して同じ絵でも1人ずつ違うアイデアがあることを探す。



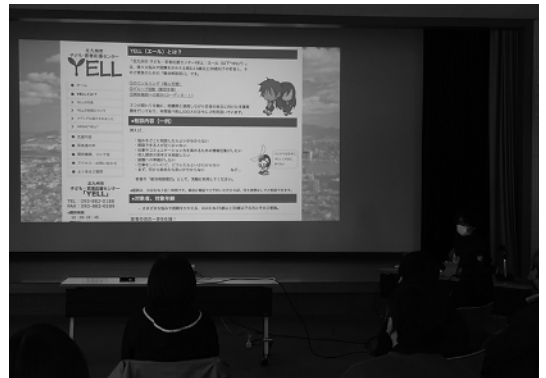
### 演劇と福祉が一緒にできること【出会いと学びプログラム】①

12月20日(火) 10:00～12:00

会場：あわぎんホール 5階 小ホール

参加者：11名

- 福祉関係者を対象としたワークショップ
- ①輪になって自己紹介  
名前を呼び合うところから始めて、自分の活動などを紹介する時間。参加者は放課後等デイサービス施設職員、B型就労支援、行政職員やフリースクールの音楽教諭など。
  - ②コミュニケーションワーク
  - ③事例紹介  
有門氏が福祉施設で行ってきた事例を紹介。  
統合失調症（幻覚幻聴の症状）の方々との対話と作品作りなど。演劇でどんなことができるか知ってもらった時間となった。



### 台本へのアプローチ【演劇ワークショップ】

12月20日（火）19:00～21:00

会場：あわぎんホール 5階 小ホール

参加者：14名

8月の演劇関係者ワークショップの際に取ったアンケートで多く要望のあった、演技に関するワークショップを開催した。テーマは「台本」。台本へどのようにアプローチするかを演出家・劇作家・俳優の肩書きを持つ有門正太郎氏が紹介した。

劇団に所属していない、一般の方からも参加を募るため、公募により参加者を集めた。

ファシリテーター養成だけではなく、こうした要望のあるワークショップを開催することで、演劇に関心のある方との繋がりを深め、以降の事業への参加に繋がることを期待した。



### 演劇と福祉が一緒にできること【出会いと学びプログラム】②

12月21日（水）14:00～16:00

会場：あわぎんホール 5階 小ホール

参加者：13名

#### 福祉関係者を対象としたワークショップ②

前日に行ったワークショップを、対象を変えて実施。

参加者は高齢者施設職員、児童養護施設職員、支援学校教員、演劇関係者など。

演劇ワークショップの実例として、ティッシュを使ってそれをいかに早く回せるかというゲームをした。ゲーム自体は単純なものだが、早く回すための様々な手段が参加者からでた。初めは輪になっていたのが、1列になって滑り台のような形になっていた。プロセスの中で様々なコミュニケーションが生まれていくのを体験できた。



### ファシリテーター養成講座

12月21日（水）19:00～21:00

会場：あわぎんホール 5階 小ホール

参加者：11名

ファシリテーター養成講座を実施した。

冒頭で南河内万歳一座の内藤氏のワークショップについての講義があり、良いワークショップというのは教育現場ではできないことで、「教えない、訓練しない、達成を目指さない」を満たしているものだとし、それらを導くのが、ファシリテーターの役割の一つであるというお話があった。

実例として、有門氏が実施したワークショップは椅子取りゲーム。鬼役である有門氏が座るのを防ぐという簡単なものであったが、参加者は皆、上手くいく方法を互いに考え創意工夫をして臨んでいた。有門氏は「教えず、訓練せず、達成を目指さず」のワークショップを実施してみせた。





## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

あらゆる県民に文化芸術を届けるべく、ホール公演の実施や、学校へのアウトリーチなど、多種多様な事業を実施しているが、繰り返し来館しているのは一部の県民のみであり、特に障がいなどを持った社会的弱者の参加は、かなり限られていた。特に、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、その傾向は強くなっており、こちらから出向くアウトリーチの再開や、障がいの有無に関わらず参加出来る仕組みを構築することこそが今後の課題であった。

そうした課題を踏まえて、演劇の手法を活用し、少人数でも行えるコミュニケーションワークの実施や、劇場を使った体験など創意工夫を凝らし、障がい者が文化芸術に参加できる仕組みを模索するため、この事業に参加した。

### ●企画・実施において苦労した点

「福祉を対象に」と漠然と捉えていたが、福祉といってもその幅は広く、どういった人達を対象に思い描くかに苦労した。

当初1年計画での事業実施を考えていたが、全体研修会の際に、この事業は1年で完結するものではなく複数年かけて取り組むべきものだと考え、リージョナルシアター事業では成果発表などは行わず、関係者へのインリーチのみの実施とした。前述のように、明確な対象を決められずにいたので、できるだけ多くの人と福祉関係者とをマッチングして実情をリサーチしたいと考えていたが、それも十分ではなく、今回できた縁をきっかけに、引き続き関係作りをしていきたい。

### ●プログラムを実施した成果

実施したプログラムは大きく分けて以下の2つ。

- ①福祉関係者へのインリーチ
- ②県内演劇団体を中心に演技講座及びファシリテーターの養成

①では、プログラムにホールの担当者自身も一緒に参加することで、演劇と福祉で何ができるかを知ってもらうきっかけにもなったし、何より参加者と仲良くなることができた。

②により、県内でファシリテーターが養成できれば、今後演劇事業を長く続けることができる。

また、参加者からも要望が多かった演技の講座なども取り入れることで、参加者増加が見込めた。今後、財団の自主事業において、一緒に実施してくれるパートナーとなり得ると思った。

### ●今後の展望

福祉・演劇の参加者とは事業終了後も連絡を取り合っており、互いの公演・事業などを誘い合ったり、次年度のことを相談したりしている。

こうした縁をつなぎつつ、次年度以降も福祉のインリーチは続けたいと考えている。時間をかけて関係を構築し、演劇を使ったプログラムを模索したい。

また、ファシリテーターについても取り組みは継続していきたい。具体的には今回来てくれた有門さんに学校や施設のアウトリーチを依頼し、実際の現場を県内の演劇団体の方たちにも参加してもらうような実践の機会を設けたいと思っている。

# アーティストレポート

---

## 「見つめ直すことで再認識できる」

有門正太郎

徳島県徳島市の中心地近くにある、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）は、以前より芸術文化事業に熱心で様々なジャンルの催しを積極的に行っている印象のホールです。

人口 73 万人の徳島県に対し徳島市は 26 万人、鳴門海峡を望む海とロープウェイで登れる眉山に囲まれた自然豊かで何を食べても美味しい徳島でした。

阿波踊りが一人歩きしている印象とは違い、地域資源の豊富な場所で人形浄瑠璃などの郷土文化がしっかりと残っている事も印象深かったです。

今回、事業を行うにあたり最初からはっきりとミッションを持っている点は流石今まで様々な事業を行ってきたホールだなと感じました。

他のホールでは中々手を出しづらい「福祉と繋がる」をテーマに研修会から協議を重ね実施に至ったわけですが、そこから課題も見えてきました。

最近では演劇のワークショップ等を行っていない事もあり、地元の演劇人と繋がる事、演劇人のファシリテーター育成も視野に入れたプログラムも取り入れました。

地元演劇人の育成、そして将来福祉施設にファシリテーターとして随行するようなビジョンは長期的な展望を考えているようでした。

実際に打ち合わせを重ねるに連れ見えてきた課題は、「なぜ今、福祉と繋がりたいのか」という部分でした。そこで今回は「福祉の事を知る」事と「地元演劇人の発掘」の両輪で進める形に収まりました。

1回目派遣ではリサーチに費やすような部分も多く、2回目派遣のプログラムとの比重に偏りが出てしまったので、下見含めもう少し擦り合わせが綿密であればと反省しました。

「福祉と繋がる」部分に関してもインリーチ、ヒヤリングと施設関係者向けのワークショップを行いました。この部分は丁寧にしっかりとリサーチを重ね焦らず、そして、継続して関係性が作れるパートナーを探す事も視野に進めました。

「福祉」と一言では捉えられない範囲の広さなどの座学的な部分や、実際に私が行ってる福祉施設での事例紹介などを通じて、施設職員の方々から様々な意見が交わされ有意義な時間になったと思います。しっかりとホール全体でこの取り組みを理解し前に進める継続事業になれば嬉しく思います。

地元の演劇人も多く、ファシリテーターはじめ様々な分野で連携の取れる事業を期待したいです。台本を使ったワークでは個性の溢れる俳優陣も沢山いてホール職員が「この出会いこそ財産です、無駄にしないよう関係性をもっと深めます」と言われたのが印象に残りました。

「福祉と繋がる」というミッションが時間をかけて丁寧に前に進める事業であると認識頂いたのではと感じています。今回多くの職員の方にも参加頂いた事も今後の展開に期待するところです。担当者のみならず職員全体で今後の進め方や、演劇人との関わり方を協議して行って欲しいと思います。「継続は力」と理解しててもどのホールもこの継続が一番難しい事も現実なのですが・・・。あわぎんホールならクリア出来ると信じ今後の事業に期待しています。改めて今まで行ってきた事業も含め「なぜやるのか？」を説明できる言葉を持つ事で、更に他地域を牽引するホールになると思います。

令和4年度リージョナルシアター事業報告書  
発行・編集：一般財団法人地域創造  
発行日：令和5年6月

